

「21世紀を担う、心豊かで創造性にあふれたエンジニア」を育成するために！

平成27年度

在学生・教職員

# KTC総合アンケート調査結果

[報告書 抜粋]

金沢工業高等専門学校

## 平成27年度KTC総合アンケート調査結果について

学校のプログラムの成果と効果を継続的に観察し、その機能している強い部分を把握した上でそれらを強化し、同時にあまり機能していない弱い箇所も認識し改善していくことは重要です。学校はその出資者である学生と保護者、そして二次的な出資者ともいべき卒業生の雇用者、教職員、そして社会全般に対しても一連のサービスを提供していると言えます。学校が用意する教育サービスの本質とクオリティを評価するために、様々な種類のデータを収集し比較することが必要となってきます。よって金沢高専にとって、毎年実施されている KTC 総合アンケートはひとつの鍵となる資料になります。

このアンケートは学生と教員における様々な受け止め方や、彼らが抱いている印象を示してくれる重要な指標となります。満足感や達成感は重要な目標であり、またプログラムそして職場としての学校のクオリティを指し示すものであります。

したがって、私たちは一般的な満足度を評価しようと試みており、またその満足度をより上げている要因、あるいは下げている要因となっているプログラムや施設の側面を把握することにも取り組んでいます。しかしながら、私たちが提示している「2020 Vision」の目標としては、満足だけには留まらずさらに先を目指しています。4つの主な目標としては、1) アカデミアを育てる、つまり学生と教員を含めた学習者のための協働コミュニティーを育てる、2) 学校生活を彩りあるものにする、つまり私たちが提供する教育体験をできるだけ魅力的にそして刺激的なものにするよう努める、3) 個々の学生の唯一の個性やオリジナリティを評価し育てていく、そして4) 革新的な考え方をする人物を教育していく。これらの目標に向かって進歩しているかを見極めるために、そしてその目標により近づいていく方法を探るために、私たちはここにいただいたデータを注意深く分析していかなければいけません。

ご協力下さいました関係者の皆様に感謝の意を表したいと思います。

平成 28 年 6 月

金沢工業高等専門学校  
校長 ルイス・バークスデール

It is important to continuously monitor the outcomes and effects of school programs, both to identify and build on strengths, and to identify and improve weaknesses. A school offers a series of services to its principal stakeholders—students and guardians, as well as to secondary stakeholders, which include employers, the school staff, and society at large. In order to assess the nature and quality of the educational services that the school provides, it is necessary to gather and compare data from a variety of sources. For KTC, one of the key sources is the annual KTC General Survey of students and faculty.

The results of this survey provide an important indication of the range of attitudes the students and faculty hold, and impressions that they receive. A sense of satisfaction and fulfillment is both an important goal and an indicator of the quality of programs and of the school as a workplace.

So we try to measure general satisfaction and identify aspects of our programs and facilities that promote or detract from it. The goals of our stated “2020 Vision,” however, go beyond satisfaction. Four main goals are: 1) to foster an Academia—that is, a cooperating community of learners (including both students and teachers); 2) to make school life “colorful”—that is, to ensure that the educational experiences we provide are as engaging and stimulating as possible; 3) to value and foster each student’s unique personal individuality and originality, in order to; 4) educate innovative thinkers. We must carefully analyze the data we have here in order to assess our progress towards these goals and to find ways to move closer to them.

I would like to thank the staff members who helped carry out this survey, as well as the many people who participated in it.

June, 2016

Kanazawa Technical College  
Lewis Barksdale, President

## ■調査の目的

本調査は下記の目的に従って実施した。

- 本調査は金沢高専の現在の状況を把握し、今後の教育改善を考えるための情報を収集することを主目的とする。
- この調査企画では、在学生と教職員に金沢高専の評価を聞き、各々の意識の違いを見いだすことで、今後の学校づくりを考えるためのヒントを得ることも目的とする。
- 本調査は平成15年度から続いており、今回で13回目となる。
- 平成17年度の調査までは年度末(2月初旬)に実施しており、平成18年度と平成19年度は9月中旬の実施に変更したが、平成20年度からは年度末の実施に戻している。

## ■調査の概略

| 項目       | 内容                         |  |
|----------|----------------------------|--|
| 調査概略     | 調査票による自記入式調査とし、すべて無記名式とした。 |  |
| 総回答数     | 569サンプル                    |  |
| 調査方法と回収数 | 1年生～5年生                    | ・有効回答数 1年生:112サンプル、2年生:106サンプル、3年生:93サンプル、4年生:107サンプル、5年生:107サンプル<br>・各クラスで配布し、回収した。(配布&回収:平成28年2月12日、17日) |
|          | 卒業生                        | ・今回は実施せず。次回は平成28年度の予定。   |
|          | 教職員                        | ・有効回答数 44サンプル<br>・各教職員に配布し、回収した。(配布:平成28年2月20日)  |
|          | 企業担当者                      | ・今回は実施せず。次回は平成28年度の予定。   |
| 調査主体     | 学校法人 金沢工業大学                |  |
| 集計       | 有限会社 アイ・ポイント               |  |

## ■集計に関して

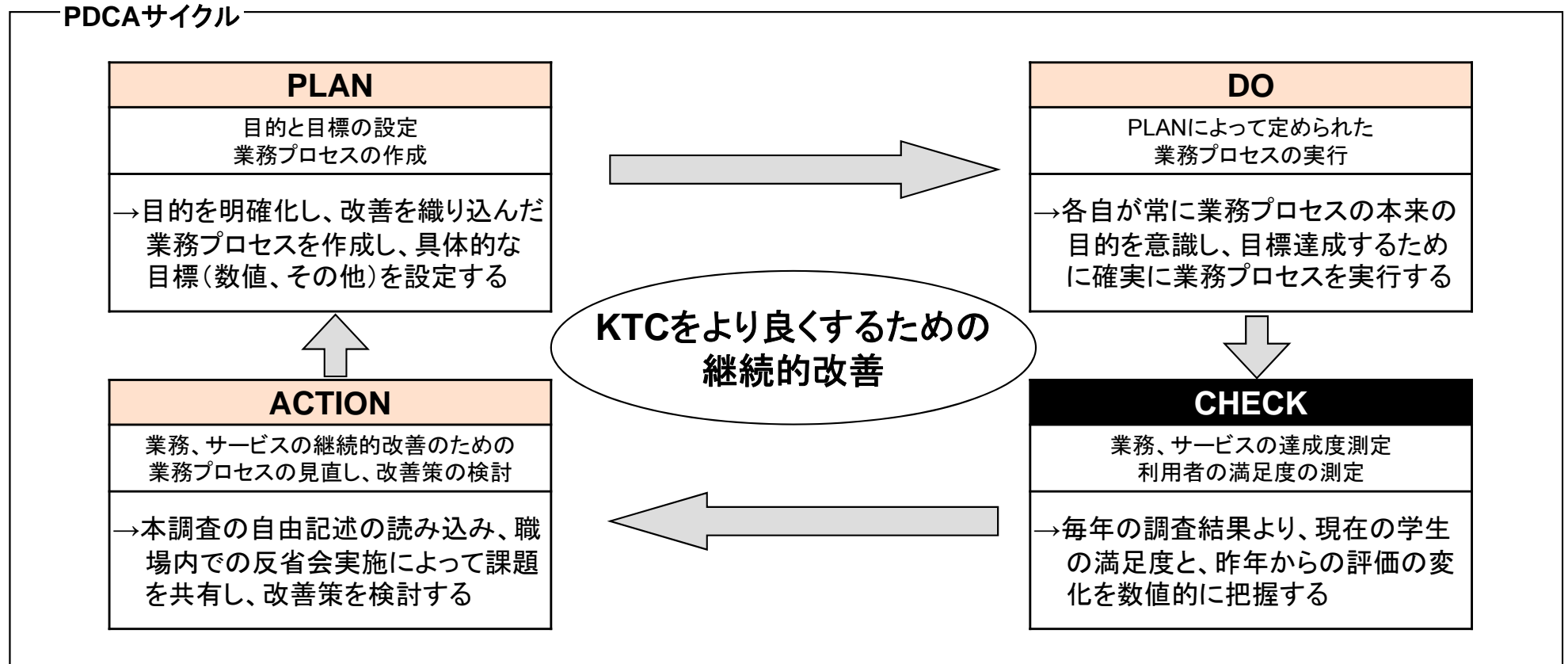
| 分野           | 注意点   |
|--------------|---|
| 加重平均に関して     | <ul style="list-style-type: none"> <li>各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。</li> <li>今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。</li> <li>加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。</li> <li>「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。</li> </ul> |
| グラフに関して      | <ul style="list-style-type: none"> <li>折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に本来の棒グラフでは見にくくなるため、折れ線グラフで表現しているものもある。</li> </ul>   |
| 学科別集計、呼称に関して | <ul style="list-style-type: none"> <li>学科別の集計は「電気電子工学科」「機械工学科」「グローバル情報学科」の3つの学科で比較を行った。「グローバル情報学科」はH27年度からの新しい呼称であり、2年生から5年生は「グローバル情報工学科」の所属であるが、新しい呼称に統一している。</li> <li>各学科の略称は「電気電子工学科」を「電気電子」もしくは「T」、「機械工学科」を「機械」もしくは「M」、「グローバル情報学科」を「グローバル」もしくは「G・J」としている。</li> </ul>  |

## ■回答者数に関して

| 学年    | 平成27年度<br>(今回分) | 平成26年度       | 平成25年度       | 平成24年度       | 平成23年度 | 平成22年度       | 平成21年度       | 平成20年度 | 平成19年度       | 平成18年度       | 平成17年度       | 平成16年度       | 平成15年度 |
|-------|-----------------|--------------|--------------|--------------|--------|--------------|--------------|--------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------|
| 1年    | 112人            | 111人         | 112人         | 130人         | 134人   | 115人         | 81人          | 110人   | 92人          | 121人         | 122人         | 135人         | 140人   |
| 2年    | 106人            | 108人         | 120人         | 128人         | 113人   | 79人          | 104人         | 105人   | 108人         | 117人         | 130人         | 135人         | 127人   |
| 3年    | 93人             | 100人         | 108人         | 93人          | 63人    | 80人          | 92人          | 95人    | 88人          | 113人         | 113人         | 98人          | 113人   |
| 4年    | 107人            | 116人         | 101人         | 76人          | 91人    | 102人         | 103人         | 103人   | 114人         | 121人         | 113人         | 109人         | 121人   |
| 5年    | 107人            | 96人          | 75人          | 85人          | 98人    | 99人          | 96人          | 111人   | 124人         | 105人         | 101人         | 116人         | 129人   |
| 卒業生   | 0人<br>(実施せず)    | 0人<br>(実施せず) | 0人<br>(実施せず) | 0人<br>(実施せず) | 73人    | 0人<br>(実施せず) | 0人<br>(実施せず) | 77人    | 0人<br>(実施せず) | 0人<br>(実施せず) | 0人<br>(実施せず) | 0人<br>(実施せず) | 66人    |
| 教職員   | 44人             | 59人          | 48人          | 55人          | 55人    | 62人          | 53人          | 59人    | 52人          | 50人          | 48人          | 56人          | 50人    |
| 企業担当者 | 0人<br>(実施せず)    | 0人<br>(実施せず) | 0人<br>(実施せず) | 0人<br>(実施せず) | 71人    | 0人<br>(実施せず) | 0人<br>(実施せず) | 36人    | 0人<br>(実施せず) | 0人<br>(実施せず) | 0人<br>(実施せず) | 0人<br>(実施せず) | 65人    |
| 合計    | 569人            | 590人         | 564人         | 567人         | 698人   | 537人         | 529人         | 696人   | 578人         | 627人         | 627人         | 649人         | 811人   |

## ■PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は下記のような業務改善の流れの中で、CHECKステップに位置づけられる。

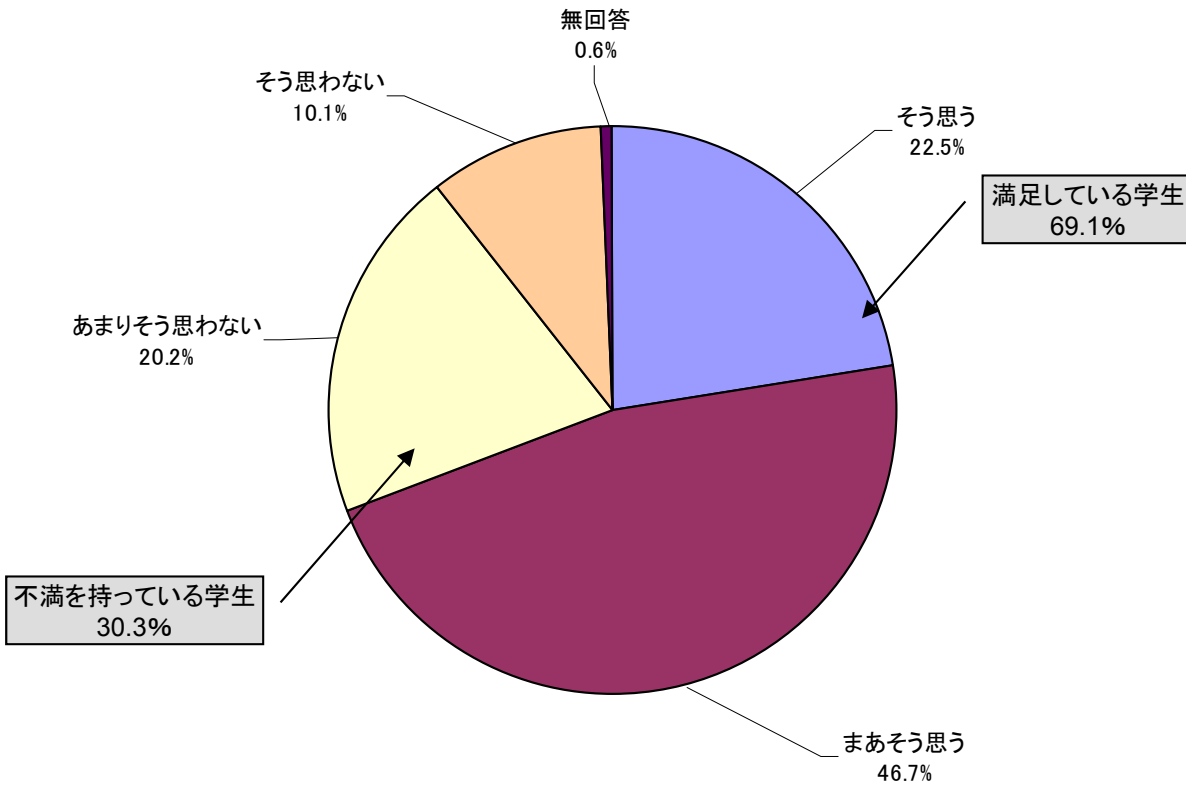


- 今回の調査によって得られた「学生の満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- この報告書で得られた結果はあくまでもアンケート結果を統計的に分析し、その結果に妥当と思われる理由をつけ加えた「仮説」であり、その検証と活用は今後の「ACTIONステップ」で行うことになる。
- また、ここで得られた数値的な結果を解釈し、金沢高専の改善に役立てるのは、実際に現場で教育や学校運営に携わっているメンバーが行うことであり、この報告書はその参考として位置づけられるものである。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見ることが主眼となる。
- 本報告書は、上記のような位置づけを継続していくことで、金沢高専の改善に資することを目的としている。

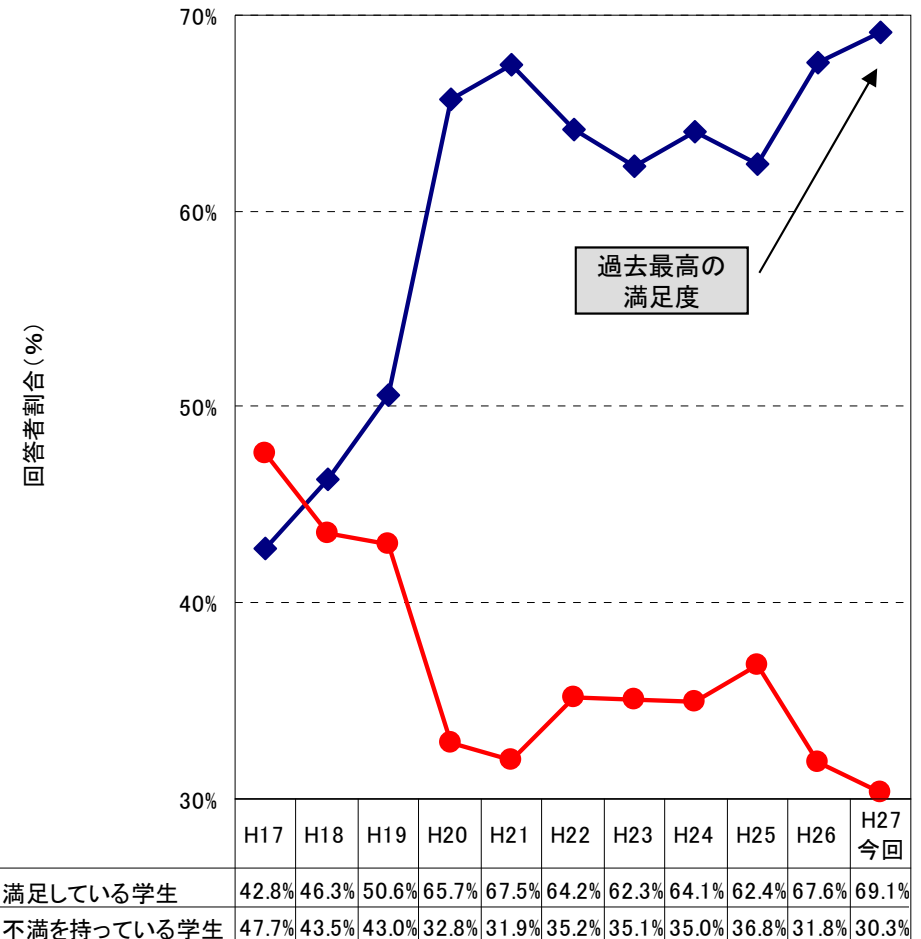
## ■本年度の総合的な満足度

- 最初に「総合的に見て金沢高専に満足していますか？」という最も重要な指標を確認したところ、「そう思う」が22.5%、「まあそう思う」が46.7%で合わせると69.1%となり、不満を持っているという回答の30.3%と比較すると38.8ポイントの差であった。
- 「満足している学生」と「不満を持っている学生」の割合の年度別比較を見たところ、「満足している学生」は前回は1.5ポイント上回って過去最高となった。一方、「不満を持っている学生」は前回は1.5ポイント下回って過去最低となった。

### ■総合的に見て金沢高専に満足していますか？（在校生のみ）



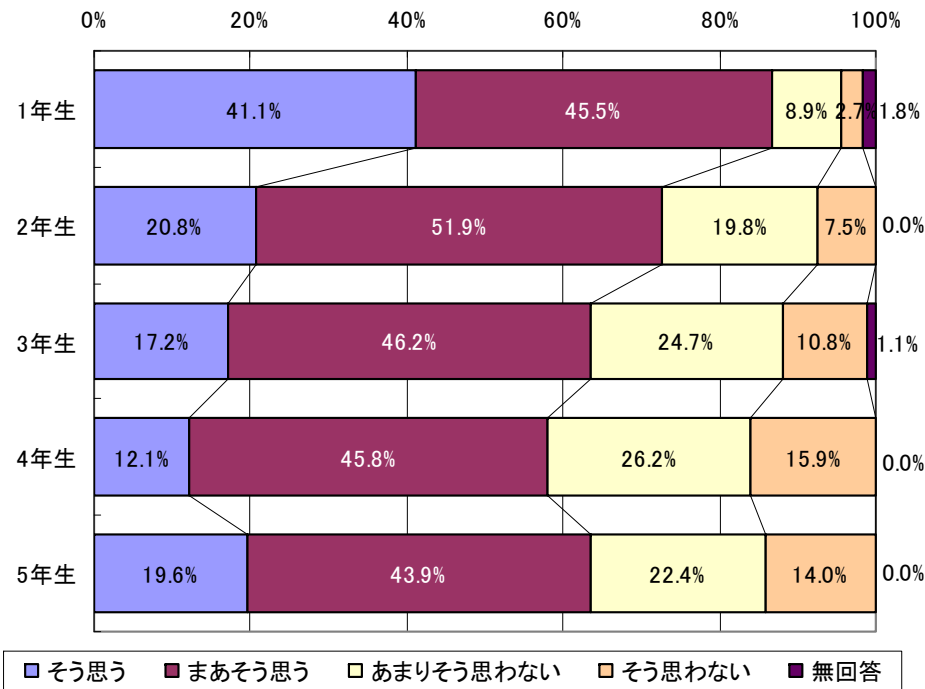
### ■金沢高専の総合的満足度 年度別比較



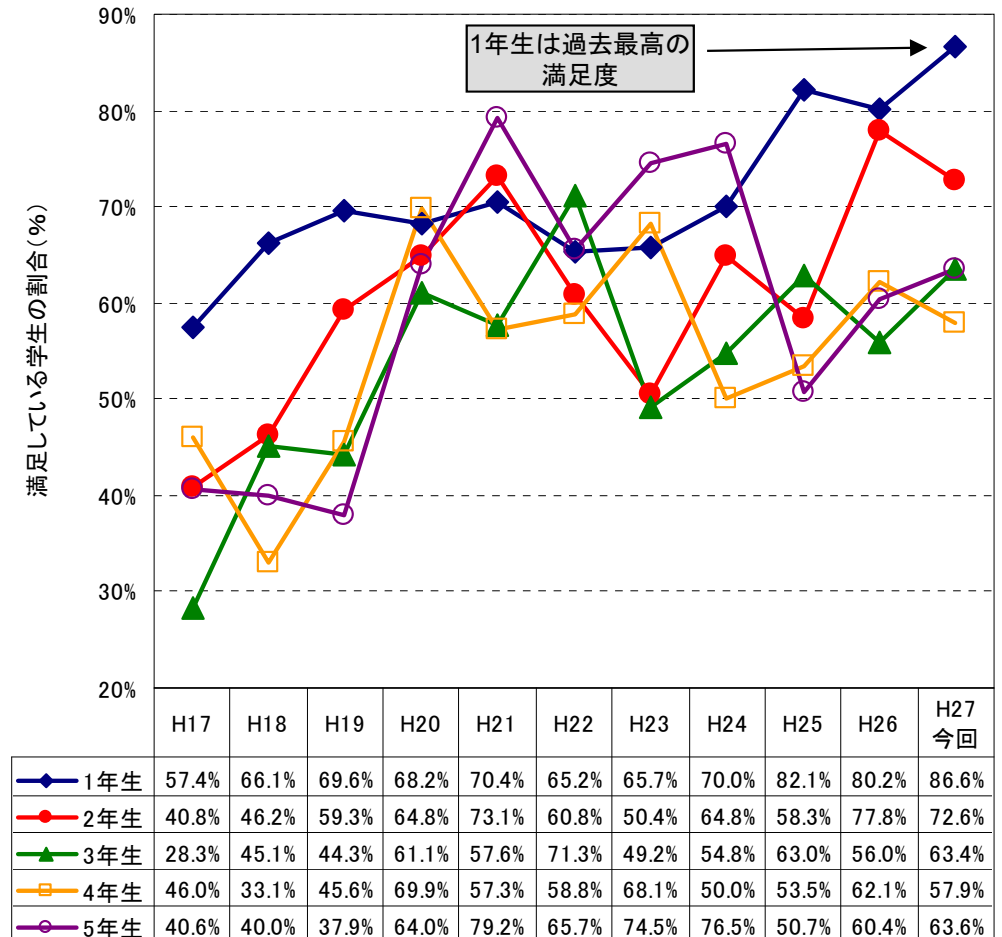
## ■総合的満足度の学年別比較

- 学年別に「金沢高専の総合的満足度」を比較したところ、「1年生」では86.6%が満足と答えており、満足度は非常に高かった。次いで、「2年生」が72.7%、「3年生」が63.4%、「4年生」が57.9%と、ここまでは学年が上がるほど満足度が低下していた。そして、「5年生」になるとやや満足度が上がり、63.5%が満足という回答であった。
- 満足している学生の割合を学年別・年度別に見たところ、「1年生」は以前より満足度が高めで、今回は過去最高の満足度となっており、他の学年との差が大きく開いていた。「1年生」はH25からH26の低下を例外にして、H22から満足度の向上が続いており、他の学年には見られない傾向となっていた。
- 「1年生」以外を見ると、「3年生」と「5年生」が前回より高くなっており、「2年生」と「4年生」が前回より低くなっていた。

■金沢高専の総合的満足度 学年別比較



■金沢高専の総合的満足度 学年別・年度別比較

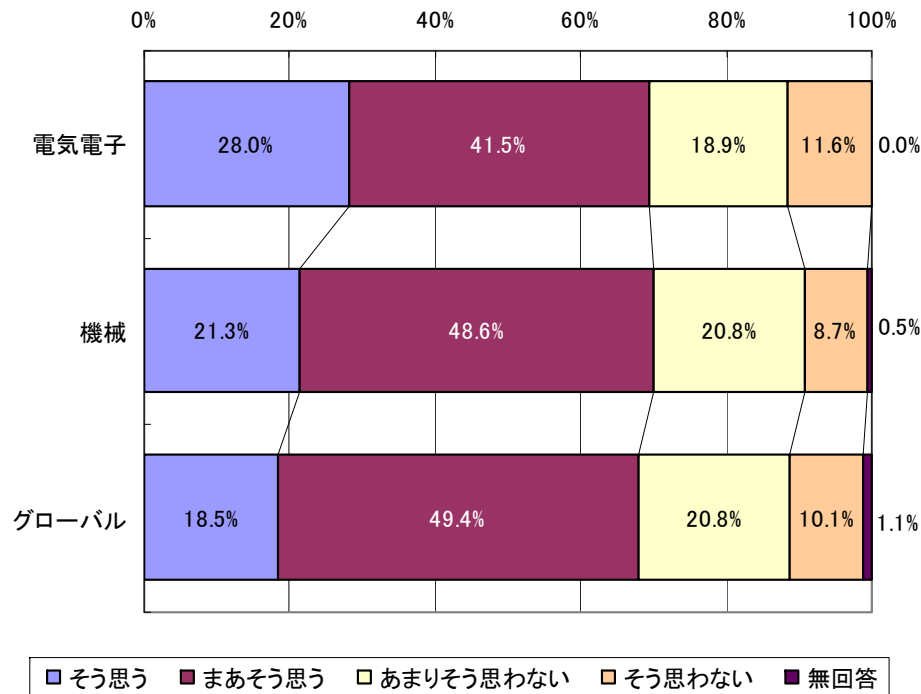




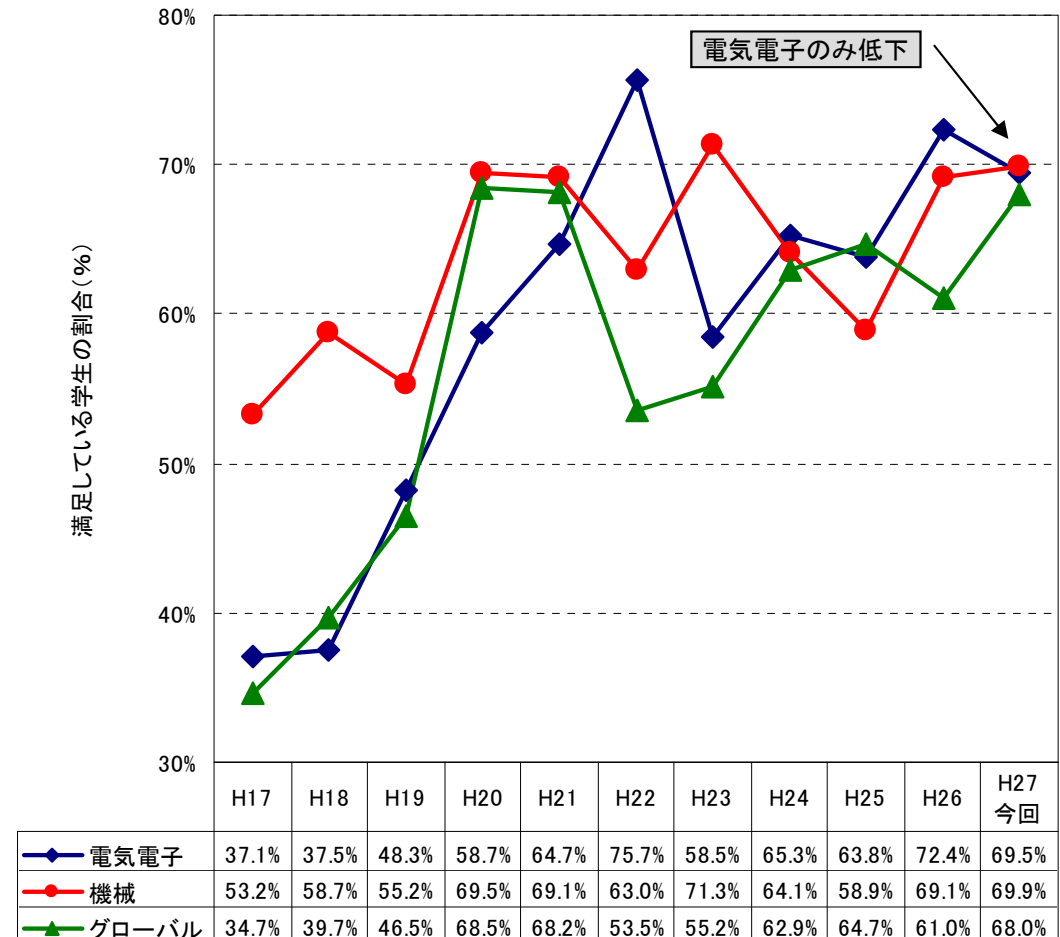
## ■総合的満足度の学科別比較

- 学科別に「金沢高専の総合的満足度」を比較したところ、「そう思う」と「まあそう思う」の合計ではほとんど差が見られず、「機械」が69.9%、「電気電子」が69.5%、「グローバル」が67.9%となっていた。ただし、「そう思う」だけで比較すると、「電気電子」が28.0%と、満足度が高い学生が多く、他の学科との差が見られた。
- 学科別の年度別比較を見ると、以前と比較して学科間の差が非常に小さくなっている点が特徴的であった。学科別には「グローバル」が前回より大きく上がり、「機械」が微増、「電気電子」が低下しており、これまでと比較するといずれの学科も目立って高くはないものの、過去2～3番目の高さとなっていた。

### ■金沢高専の総合的満足度 学科別比較(在学生のみ)



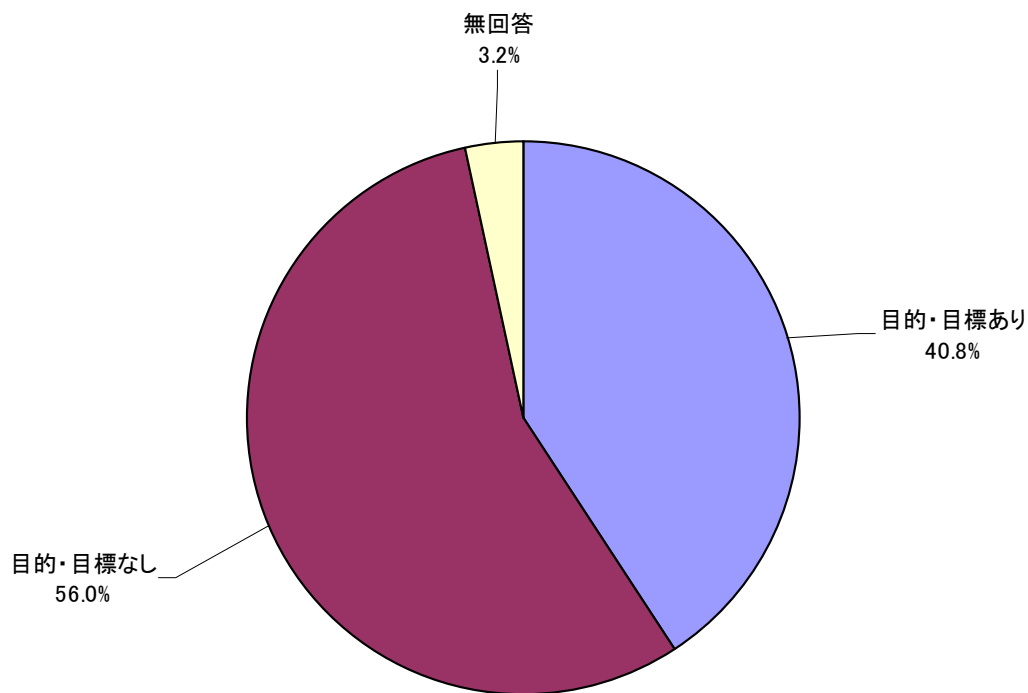
### ■金沢高専の総合的満足度 学科別・年度別比較



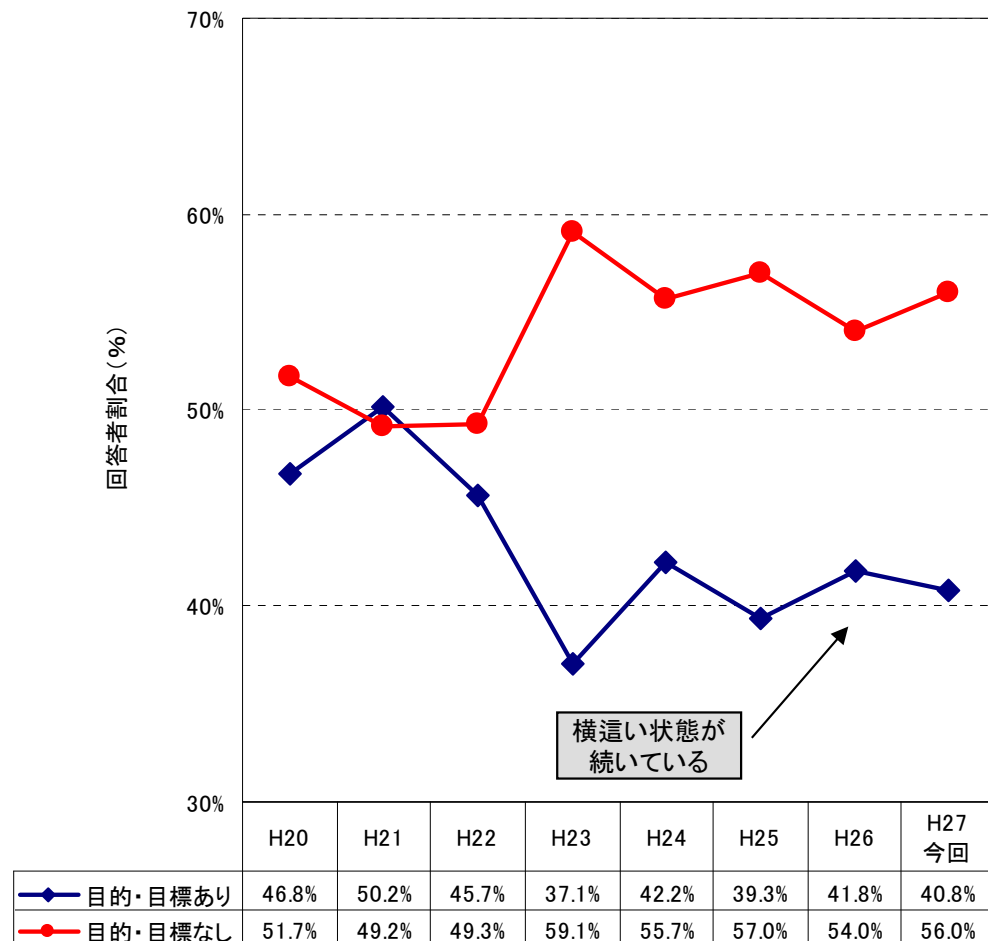
## ■在学中の「目的・目標」の意識

- 「高専生活を送る上で何らかの目的・目標を持っていますか？」という質問に対しては、「目的・目標あり」が40.8%、「目的・目標なし」が56.0%となっていた。
- 年度別比較を見ると、「目的・目標あり」はH24からほぼ横這い状態が続いており、前回より1.0ポイント低下していた。同様に「目的・目標なし」も横這い状態が続いていたが前回より2.0ポイント増加していた。

■在学中の「目的・目標」の意識



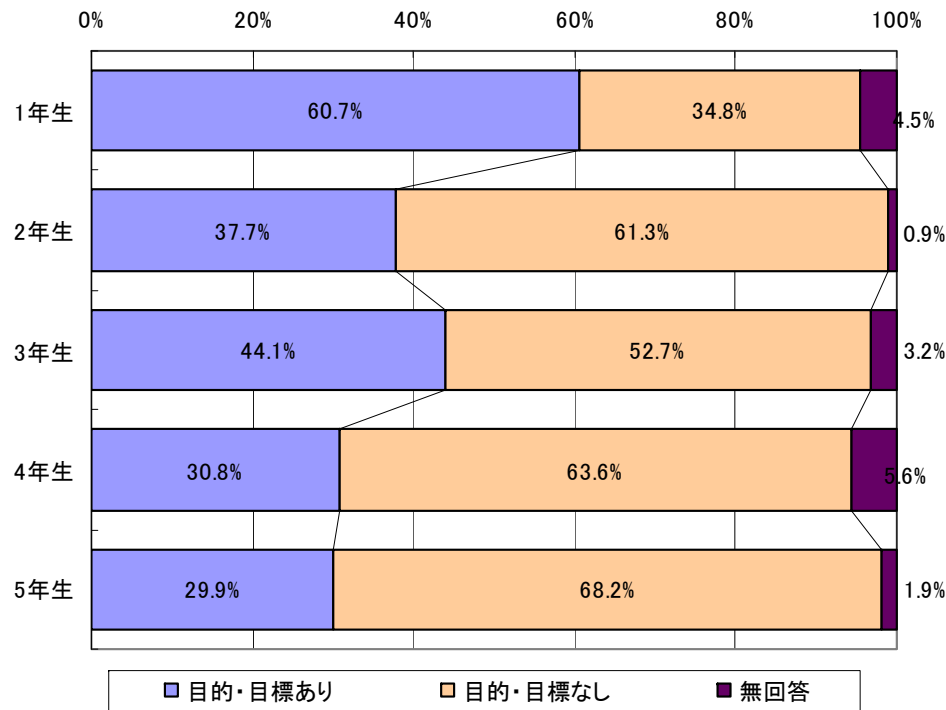
■在学中の「目的・目標」の意識 年度別比較



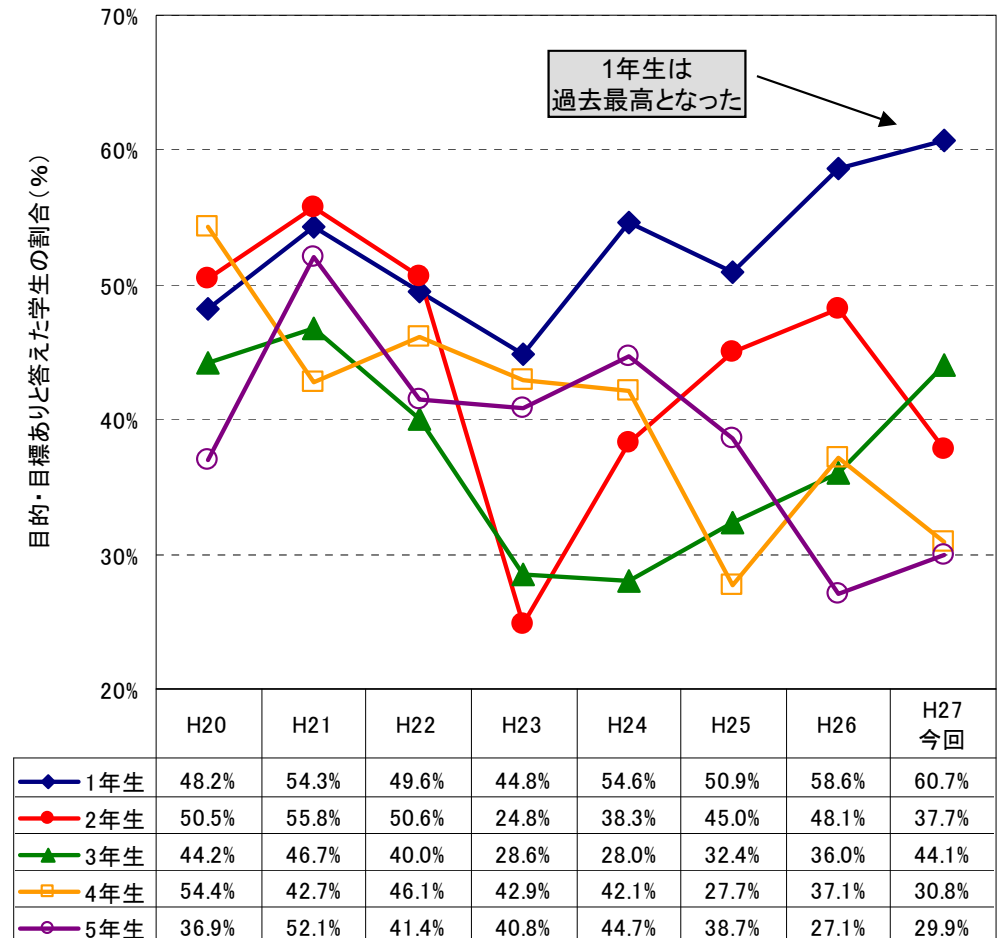
## ■「目的・目標」の意識の学年別比較

- 学年別に「目的・目標」の意識を比較すると、「目的・目標あり」は「1年生」が60.7%と最も高く、全学年で唯一、半数を超えていた。続いて、「3年生」が44.1%、「2年生」が37.7%であり、「4年生」と「5年生」は30.8%、29.9%とほぼ同じであった。
- 学年別・年度別に「目的・目標あり」の割合を比較すると、「1年生」はH25から増加傾向が続き、今回は過去最高となっていた。また、「3年生」もH24から増加傾向が続き、過去3番目の高さとなった。「5年生」は前回は上回ったものの、過去2番目の低さであった。
- 一方、「2年生」「4年生」は前回は下回って、いずれも過去2番目の低さとなった。

■在学中の「目的・目標」の意識 学年別比較



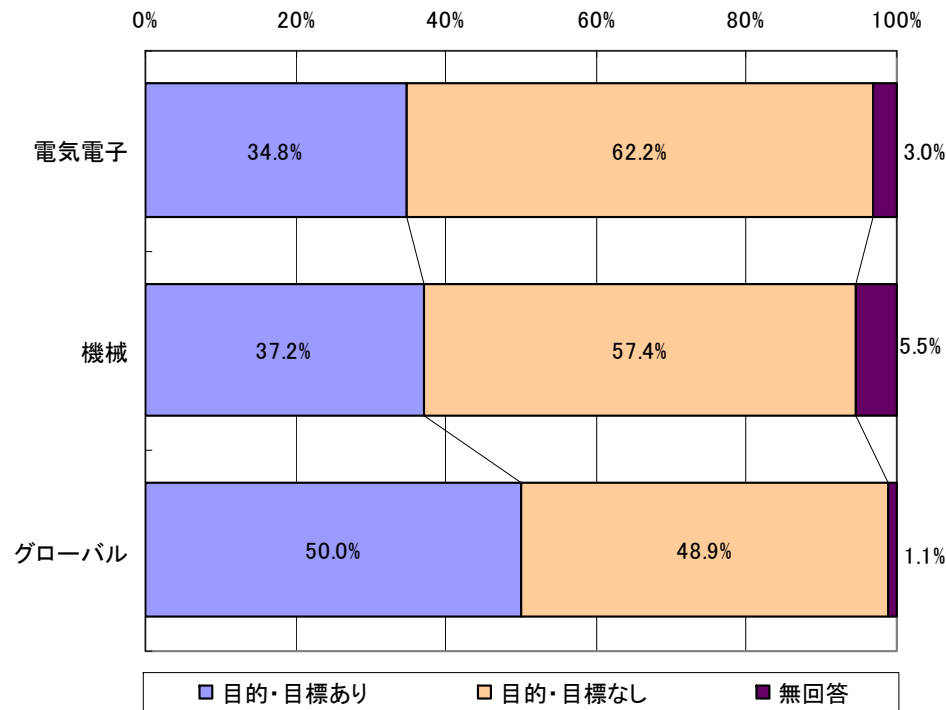
■在学中の「目的・目標」の意識 学年別・年度別比較



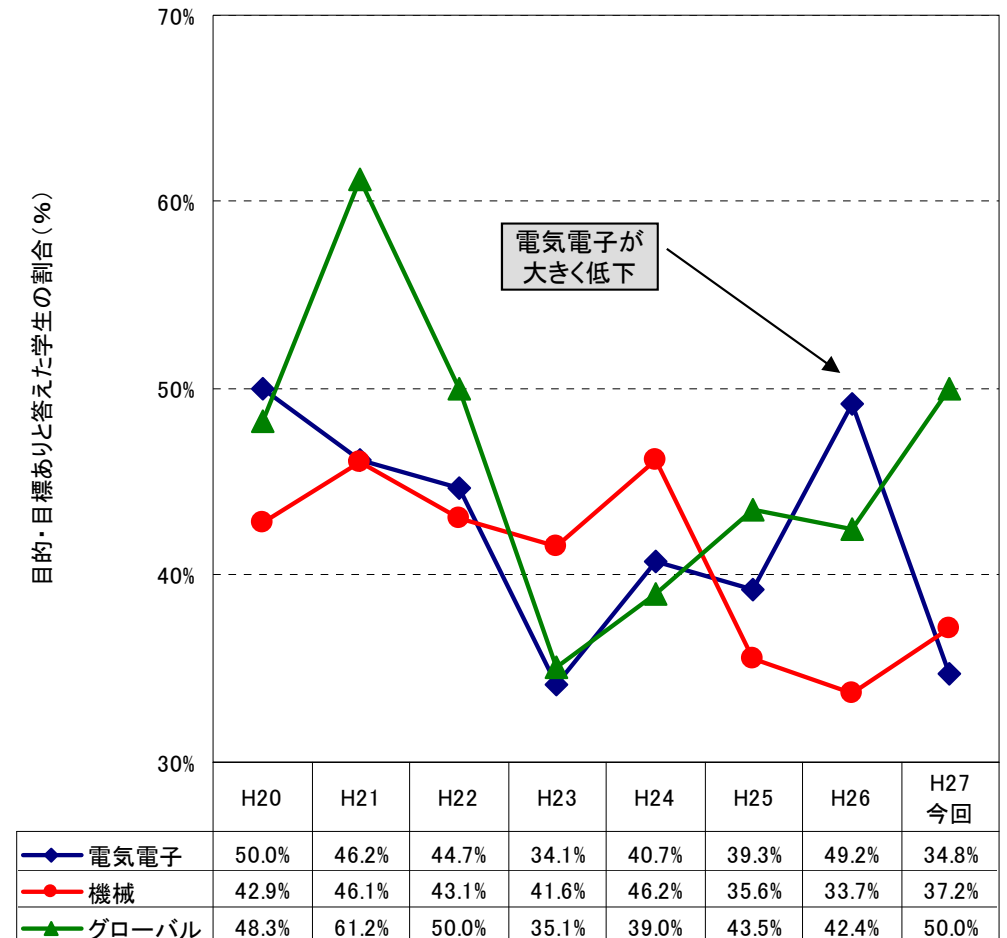
## ■「目的・目標」の意識の学科別比較

- 学科別に「目的・目標あり」の割合を比較すると、「グローバル」が50.0%と最も高く、「機械」が37.2%、「電気電子」が34.8%と続いており、「グローバル」と「電気電子」の差は15.2ポイントであった。
- 学科別・年度別の比較では、「電気電子」が前回より14.4ポイントと大きく低下し、H23に次ぐ低さとなった。一方、「グローバル」は前回より7.6ポイントの増加、「機械」は3.5ポイントの増加となっていた。
- 以前と比較すると、「機械」は変動は小さいものの「目的・目標あり」が低下する傾向が見られ、「グローバル」は例外はあるがH23を底として増加傾向にあると言える。

### ■在学中の「目的・目標」の意識 学科別比較



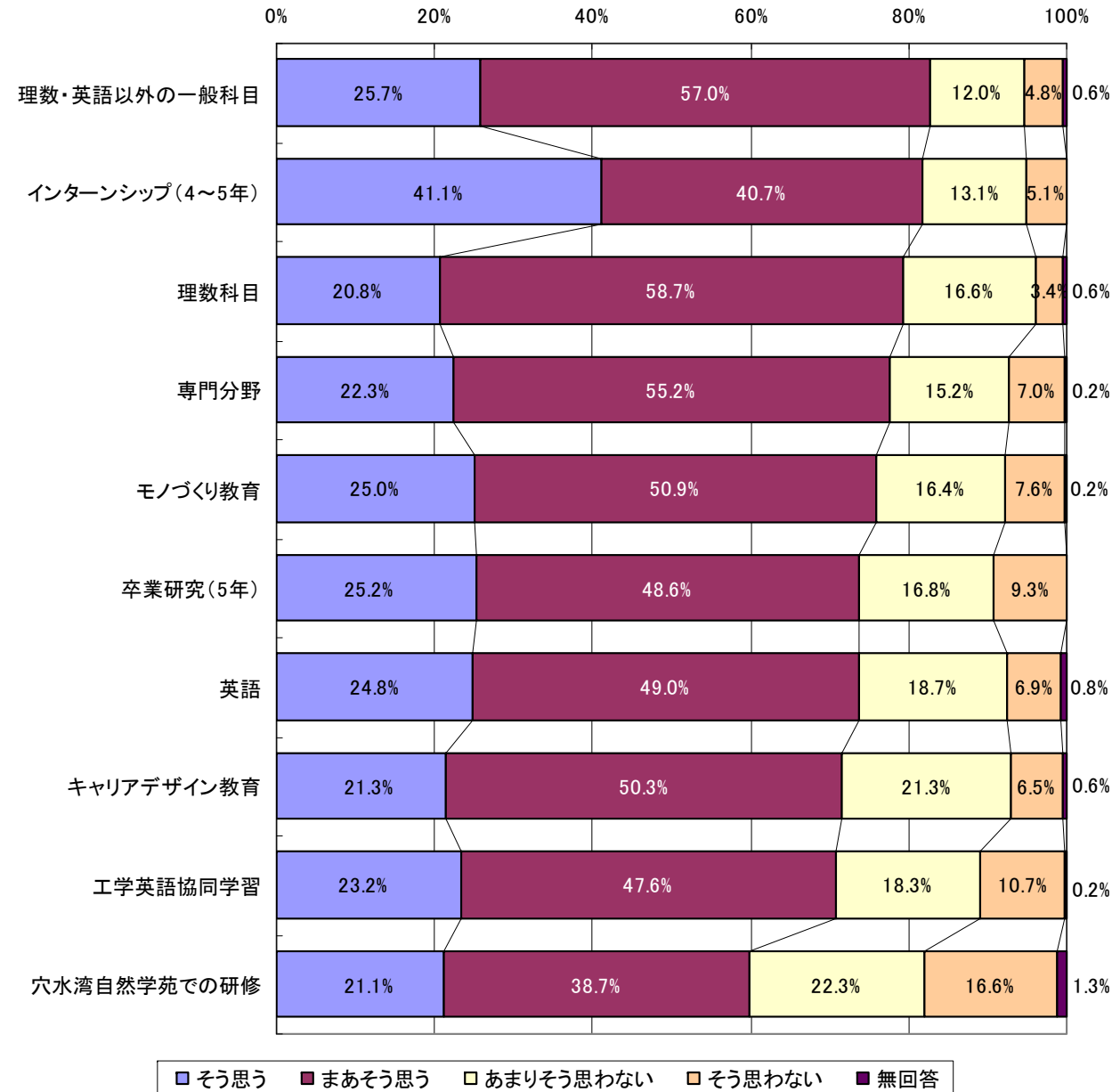
### ■在学中の「目的・目標」の意識 学科別・年度別比較



## ■授業に対する評価

- 10分野の授業の満足度を聞いたところ、満足しているという肯定的な意見が8割を超えていたのは「理数・英語以外の一般科目」の82.7%と「インターンシップ」の81.8%であったが、「そう思う」だけを見ると「インターンシップ」が41.1%であり、他を大きく上回っていた。
- 肯定的な意見の合計は上記に続いて「理数科目」が79.5%、「専門分野」が77.5%、「モノづくり教育」が75.9%であった。
- 一方、最も満足度が低かったのは「穴水湾自然学苑での研修」の59.8%で、「工学英語協同学習」(70.8%)、「キャリアデザイン教育」(71.6%)なども低めであった。ただし、「そう思う」の割合は全体的にそれほど変わらず、いずれの科目でも2割から3割の学生が「そう思う」と答えていた。

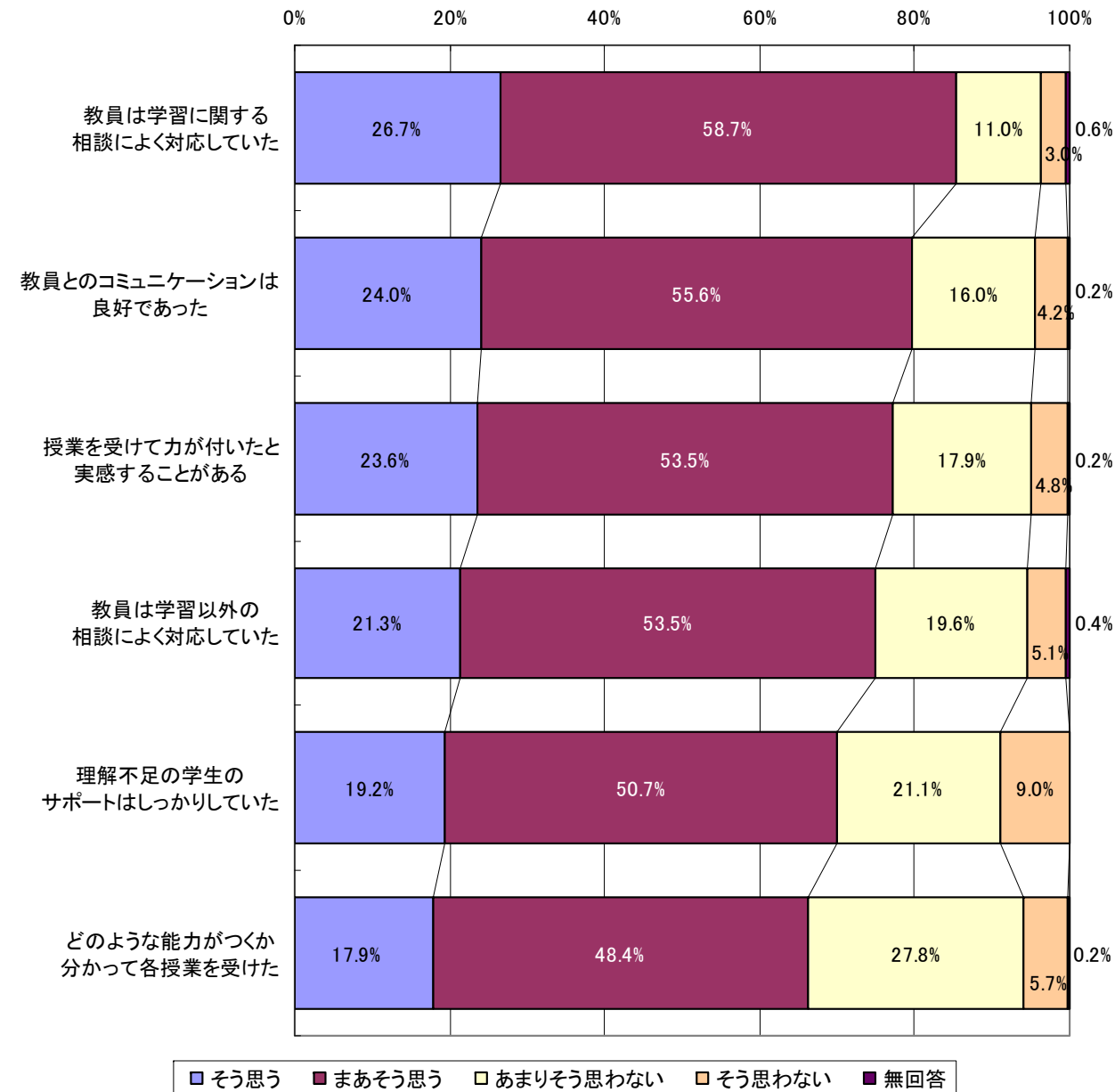
### ■授業に対する満足度(在学生のみのみ)



## ■教員および学習支援の満足度

- 教員および学習支援の満足度で最も評価が高かったのは、「教員は学習に関する相談によく対応していた」であり、85.4%が肯定的な意見であった。
- 上記に次いで、「教員とのコミュニケーションは良好であった」が79.6%、「授業を受けて力が付いたと実感することがある」が77.1%と続いていた。
- 一方、最も評価が低かったのは「どのような能力がつか分かって各授業を受けた」であり、肯定的な意見は66.3%であった。そして、「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」が69.9%で、満足度70%以下はこの2項目だけであった。

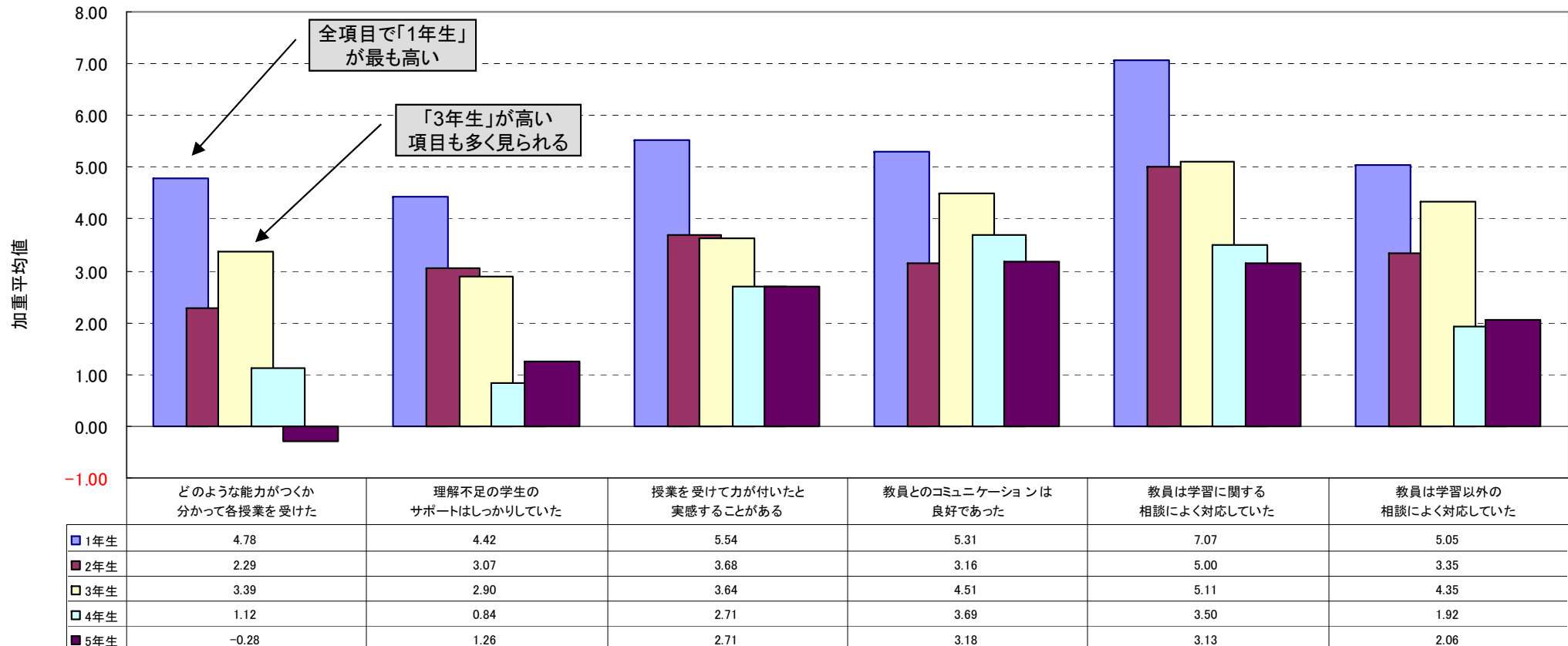
## ■教員および学習支援の満足度(在学生のみ)



## ■教員および学習支援の満足度の学年別比較

- 学年別に教員および学習支援の満足度を比較したところ、全項目で「1年生」の評価が最も高く、他の学年と大きな差が見られた。
- 「1年生」以外では、「2年生」と「3年生」の評価は低いものが多かったが、「どのような能力がつくか分かって各授業を受けた」「教員とのコミュニケーションは良好であった」「教員は学習以外の相談によく対応していた」の3項目は「3年生」の方が高い評価となっていた。
- 「4年生」と「5年生」も似た評価となっていたが、「どのような能力がつくか分かって各授業を受けた」は両者の差が大きく、ここで「5年生」は唯一のマイナス評価となっており、不満がありそうであった。
- 明確に学年との相関関係が見られる項目はなかったが、「授業を受けて力が付いたと実感することがある」は高学年ほど肯定的な評価が少なくなっており、学年による意識の変化がうかがえた。

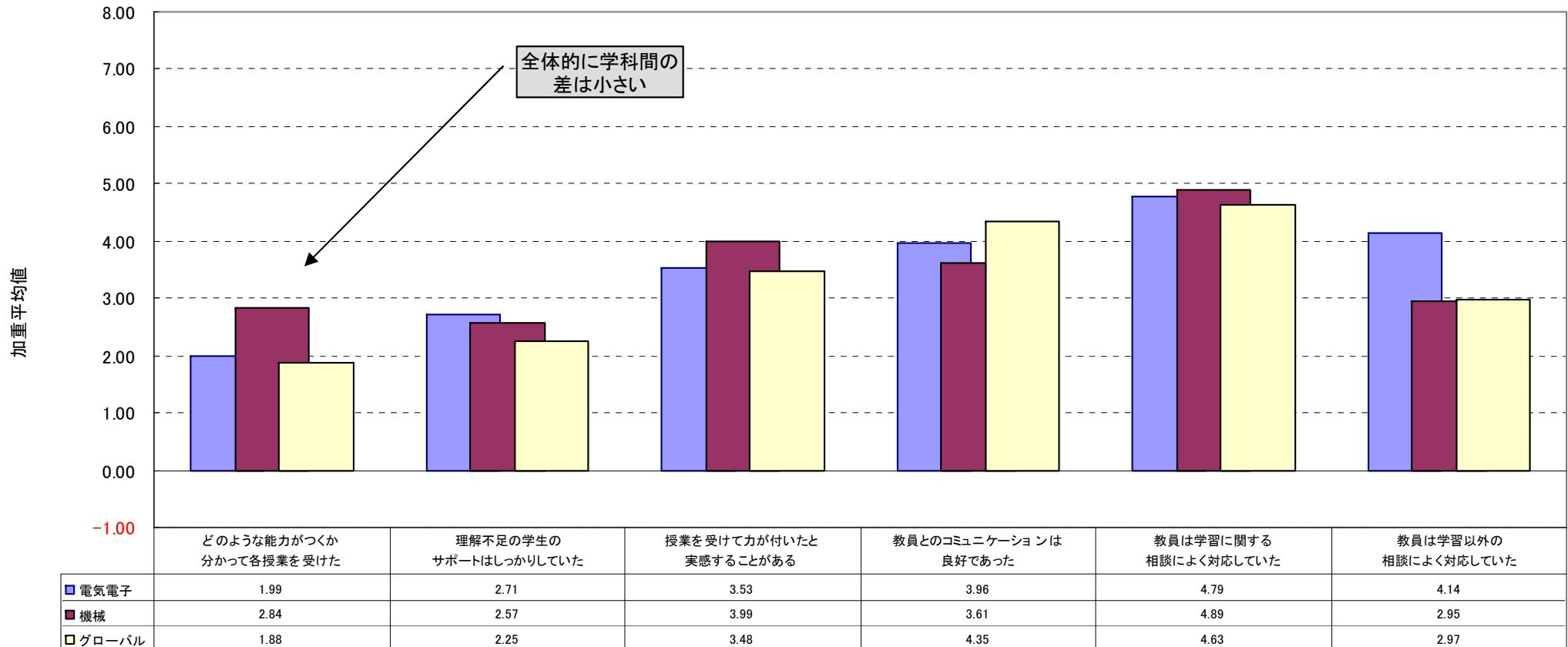
### ■教員および学習支援評価 学年別比較



### ■教員および学習支援の満足度の学科別比較

- 学科別に教員および学習支援の満足度を比較したところ、学科間の差は少なく、特定の学科が全体的に高いという傾向は見られなかった。特に「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」と「教員は学習に関する相談によく対応していた」では、差がほとんど見られなかった。
- 「電気電子」は「教員は学習以外の相談によく対応していた」の高さが目立っており、特に低いものは見られなかった。
- 「機械」は「どのような能力がつか分かって各授業を受けた」と「授業を受けて力が付いたと実感することがある」が高く、授業が充実している様子がうかがえた。一方、「教員とのコミュニケーションは良好であった」が低かった。
- 「グローバル」は差は少ないものの「教員とのコミュニケーションは良好であった」がやや高く、その他は全体的に低めであった。

■教員および学習支援評価 学科別比較

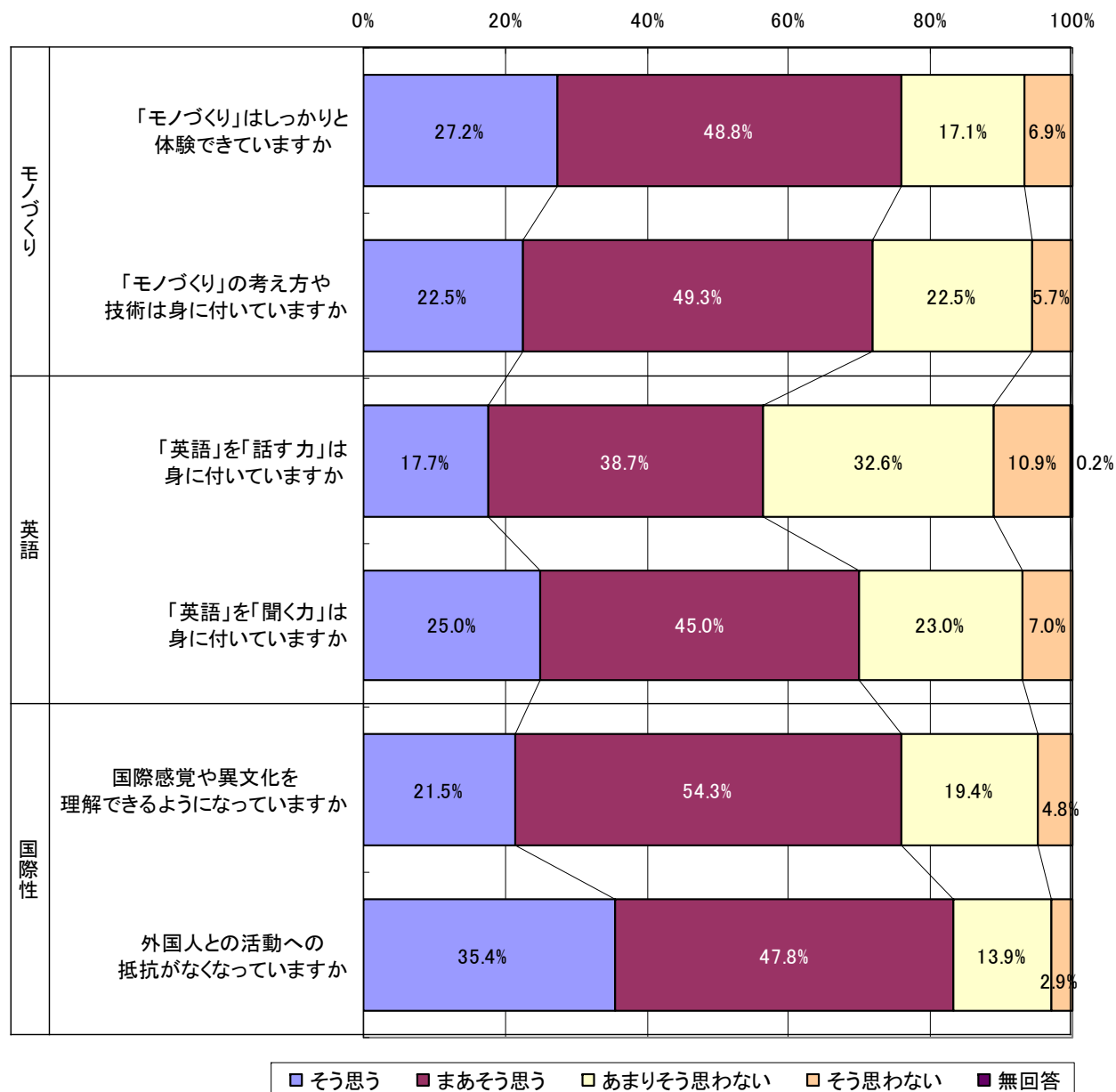




## ■「モノづくり」「英語」「国際性」に対する評価

- 「モノづくり」「英語」「国際性」の3つの分野に関する評価を確認した。
- 「モノづくり」に関して、「しっかりと体験できていますか」に対しては、「そう思う」が27.2%、「まあそう思う」が48.8%であり、合わせると76.0%が肯定的な意見であった。そして、「モノづくりの考え方や技術は身に付いていますか」に対しては71.8%が肯定的な意見であった。
- 「英語」では、「話す力」が56.4%、「聞く力」では70.0%が肯定的な意見で、学生は「聞く力」の方に自信を持っており、13.6ポイントの差がついていた。
- 「国際性」に関しては、「国際感覚や異文化を理解できるようになっていますか」では75.8%、「外国人との活動への抵抗がなくなっていますか」では83.2%が肯定的な意見であり、外国人との活動の効果が出ているように思われた。

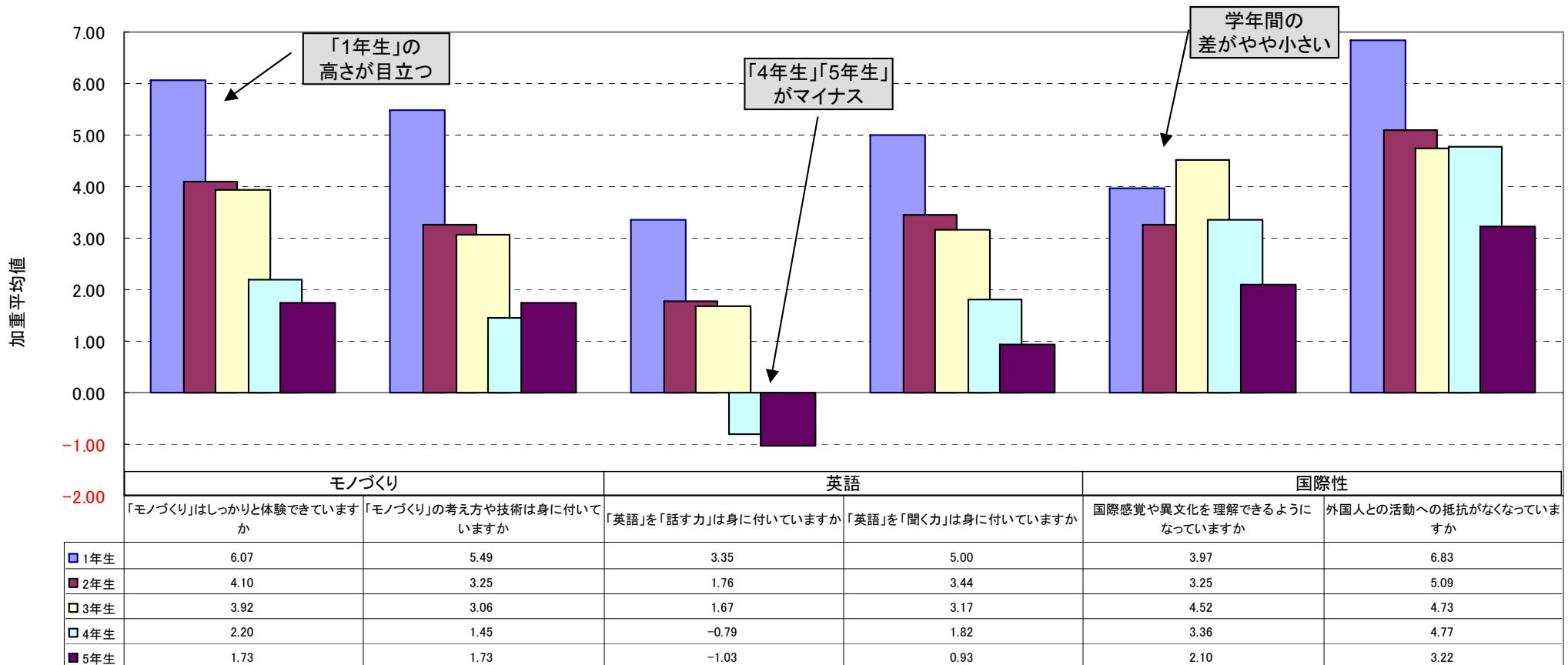
### ■「モノづくり」「英語」「国際性」の評価（在学生のみ）



### ■「モノづくり」「英語」「国際性」に対する評価の学年別比較

- 学年別に「モノづくり」「英語」「国際性」の評価を比較すると、全体的に「1年生」の評価が高く、学年と相関関係にあるものも見られた。
- 「1年生」は「国際感覚や異文化を理解できるようになっていますか」はわずかに「3年生」を下回ったものの、他の項目ではすべて最も高い評価をしており、他の学年との差も大きく、この3つの分野では非常に充実している様子がうかがえた。
- 「国際感覚や異文化を理解できるようになっていますか」については「3年生」の評価が最も高いなど、他の項目との違いが見られたが、学年による差は他の項目に比べてやや小さく、独特な評価となっていた。
- ほとんどの項目で高学年ほど評価が低くなっており、特に「モノづくりはしっかりと体験できていますか」「英語を話す力」「英語を聞く力」は学年との相関関係がはっきり見られた。また、「モノづくりの考え方や技術は身に付いていますか」と「外国人との活動への抵抗がなくなっていますか」もほぼ相関関係となっていた。
- 「英語を話す力」は「4年生」と「5年生」でマイナスとなっており、高学年はこの分野に対する苦手意識がありそうであった。

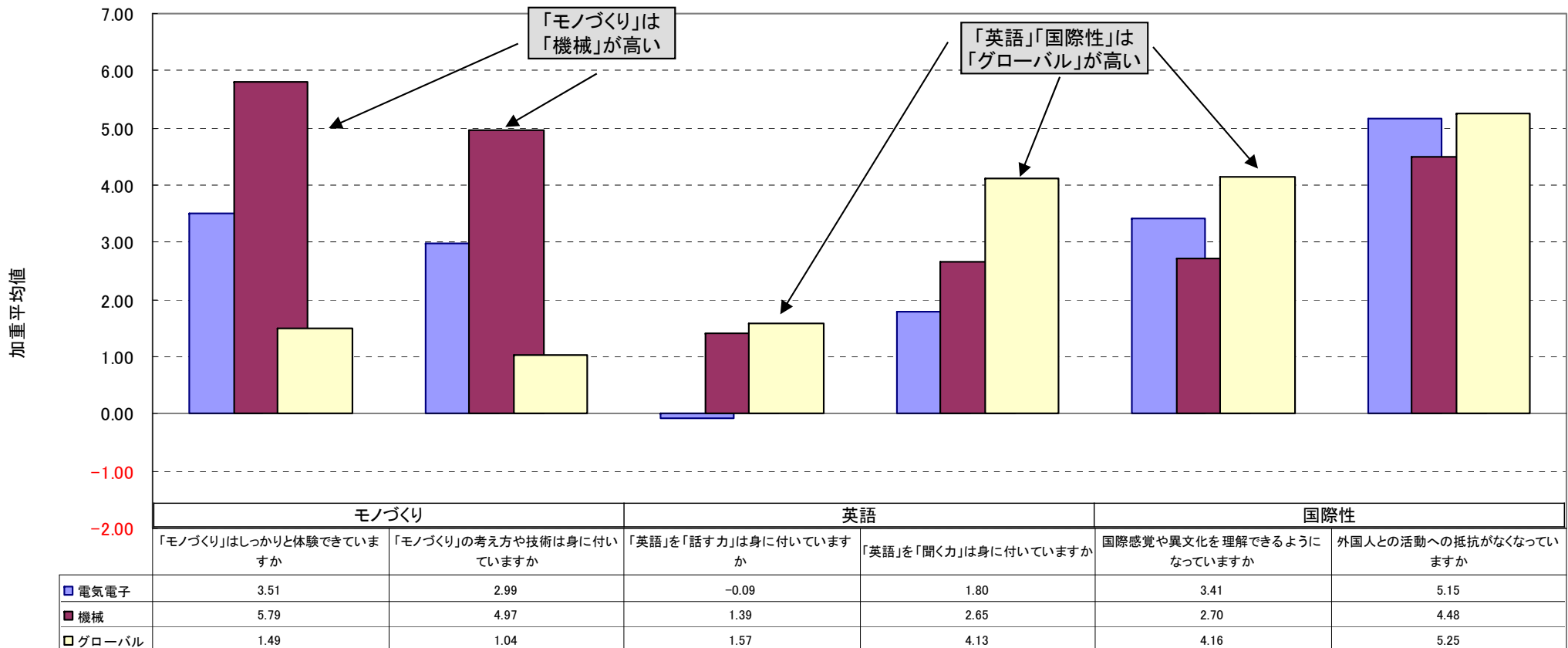
■「モノづくり」「英語」「国際性」の評価 学年別比較



### ■「モノづくり」「英語」「国際性」に対する評価の学科別比較

- 学科別に「モノづくり」「英語」「国際性」の評価を比較したところ、「モノづくり」の2項目は「機械」が高く、「英語」「国際性」は「グローバル」が高いなど、学科の特徴がよく現れていた。
- 「機械」は「モノづくりはしっかりと体験できていますか」と「モノづくりの考え方や技術は身に付いていますか」の「モノづくり」に関する2項目の評価が目立って高かった。一方で「グローバル」は、「モノづくり」の評価が目立って低いという特徴が見られた。
- 「グローバル」は「英語を話す力」「英語を聞く力」「国際感覚や異文化の理解」の評価が高く、わずかな差ではあるが「外国人との活動への抵抗がなくなっている」も最も高かった。
- 「電気電子」は全体的に中庸な評価であったが、「英語を話す力」は全体で唯一のマイナスであり、「英語を聞く力」も低く、「英語」に対する苦手意識が感じられた。

■「モノづくり」「英語」「国際性」の評価 学科別比較

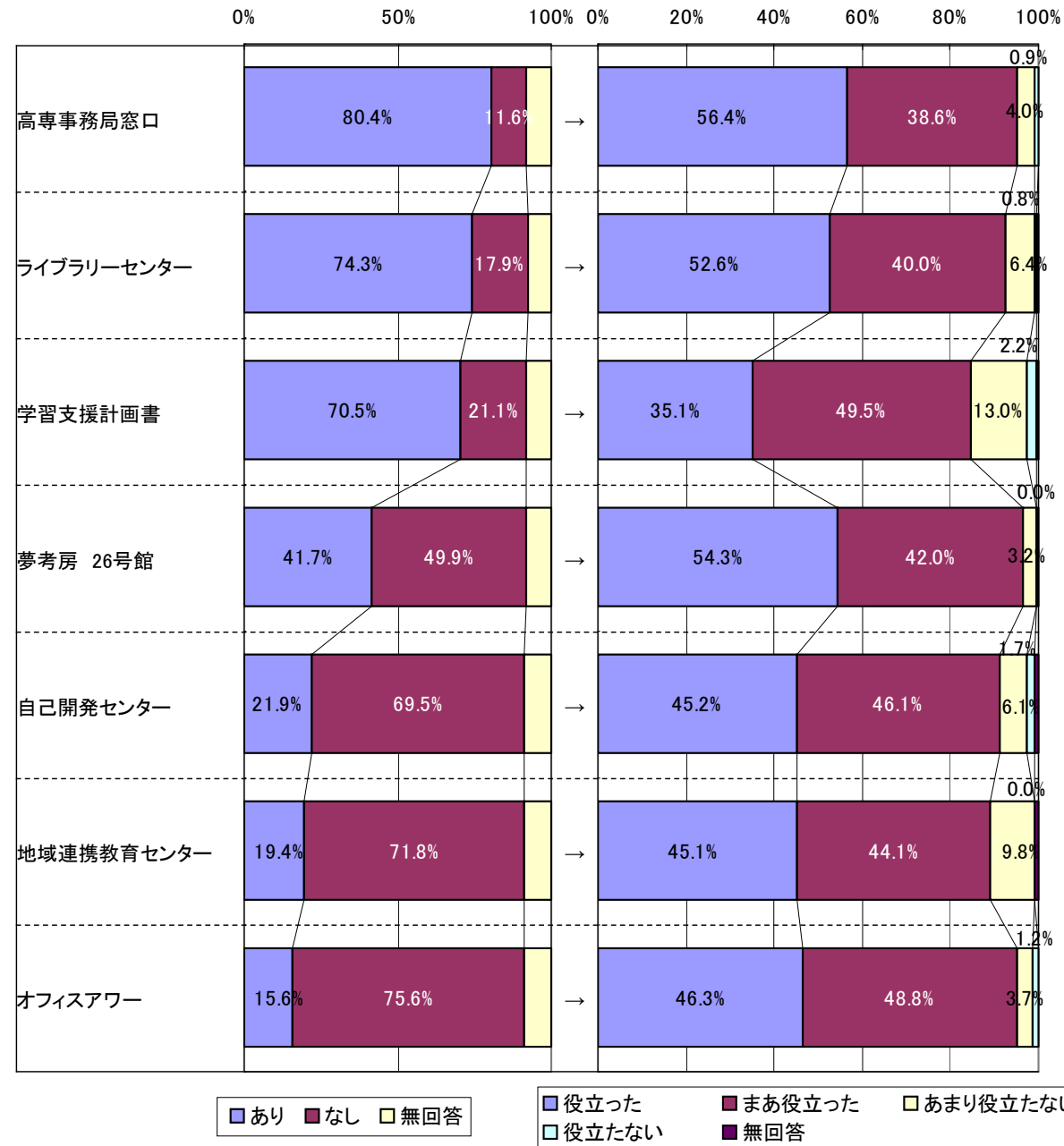


## ■学生サポートの満足度

- 学生サポートに関して、まず、利用の有無を見たところ、最も利用率が高かったのは「高専事務局窓口」の80.4%であった。次いで、「ライブラリーセンター」が74.3%、「学習支援計画書」が70.5%と続いていた。
- 一方、最も利用率が低かったのは「オフィスアワー」の15.6%であり、「地域連携教育センター」が19.4%、「自己開発センター」が21.9%で続いていた。
- 利用者の満足度は全体的に高く、「役立った」と「まあ役立った」を合わせた肯定的な意見の割合はほとんどの項目で9割を超えており、最も高かったのは「夢考房 26号館」の96.3%であり、低かったのは「学習支援計画書」の84.6%であった。
- 全体的に評価が高いため、「役立った」という回答だけで比較すると、「高専事務局窓口」が56.4%であり、「夢考房 26号館」が54.3%、「ライブラリーセンター」が52.6%と続き、最も低いのは「学習支援計画書」の35.1%であった。
- 「オフィスアワー」「地域連携教育センター」「自己開発センター」の利用率は非常に低いものの満足度自体は高く、利用者からは高く評価されているようであった。

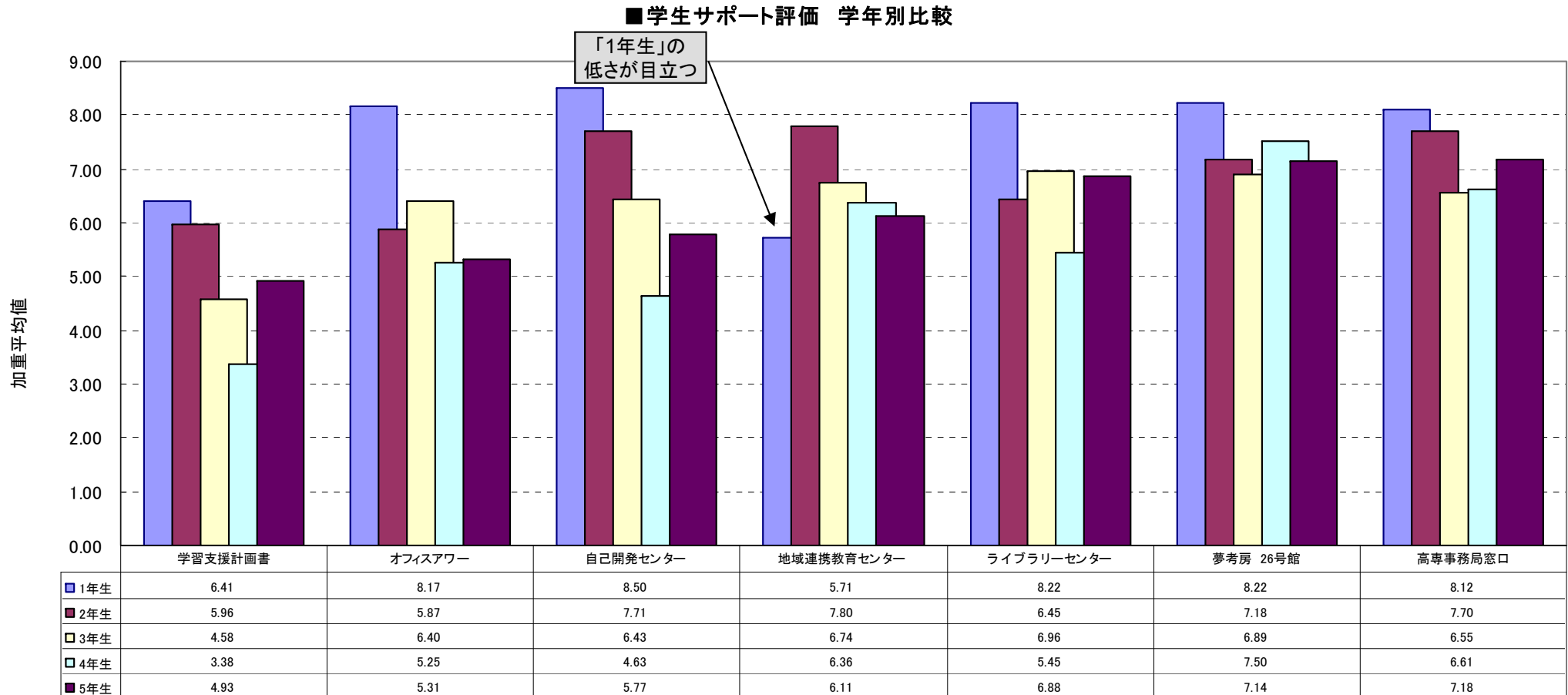
## ■学生サポートの利用の有無(左グラフ)と満足度(右グラフ)

(※満足度は利用者からの結果)



### ■ 学生サポートの満足度(利用者のみ)の学年別比較

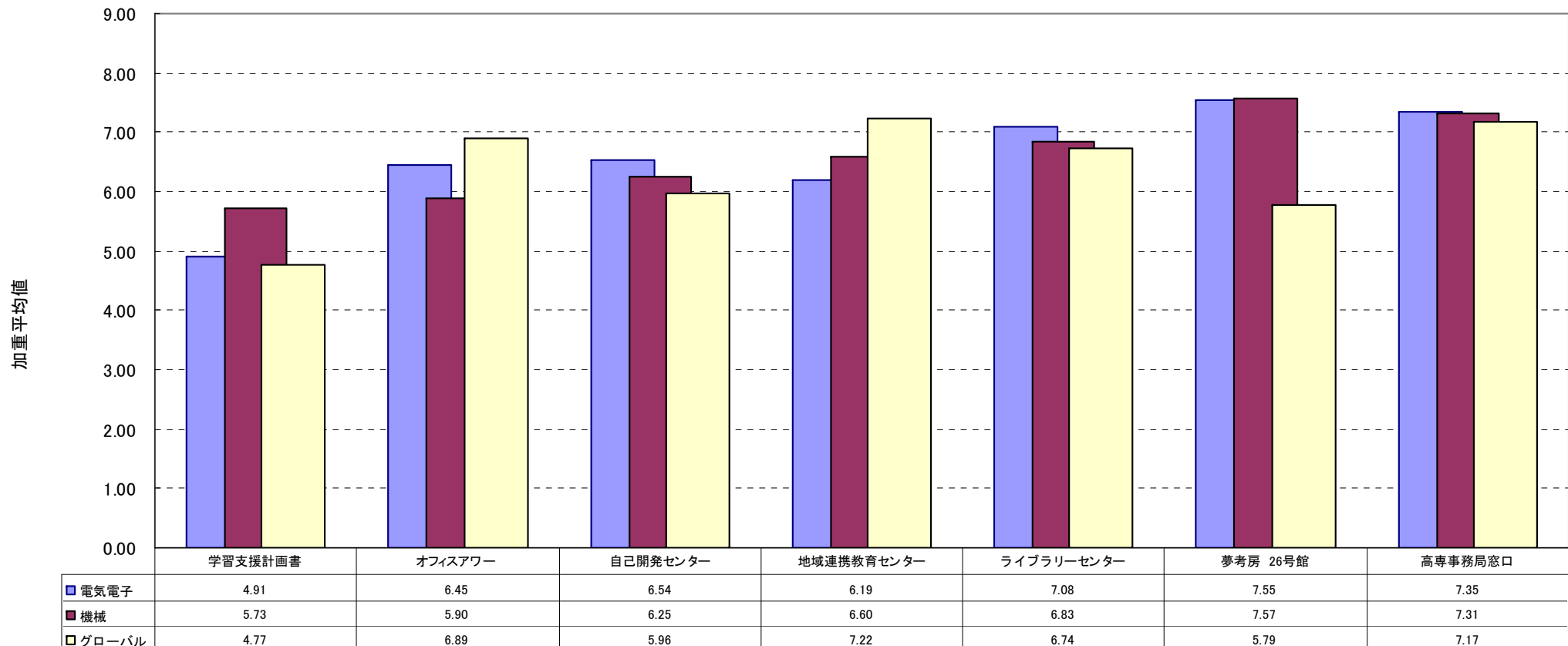
- 学生サポートの満足度を学年別に比較すると、「1年生」の満足度が全体的に高く、「オフィスアワー」や「ライブラリーセンター」などは他の学年と大きな差があった。しかし、「1年生」は「地域連携教育センター」の満足度が非常に低く、全学年で最も低かった。
- 「2年生」は「地域連携教育センター」の満足度が最も高く、他の項目では「1年生」の次に高いものも多く、全体的に満足度が高かった。
- 「3年生」の満足度は特に目立ったものはなかったが、「オフィスアワー」と「ライブラリーセンター」は「1年生」に次ぐ高さであった。しかし「夢考房 26号館」と「高専事務局窓口」は、わずかな差ではあるが最も低い評価であった。
- 「4年生」は全体的に評価が低く、「学習支援計画書」「自己開発センター」「ライブラリーセンター」の評価は目立って低かった。そして、「5年生」は特に目立ったものはなかったが、「学習支援計画書」「ライブラリーセンター」「高専事務局窓口」の満足度は比較的高めで、満足している様子がうかがえた。



## ■学生サポートの満足度(利用者のみ)の学科別比較

- 学科別に学生サポート満足度を比較すると、学科間の差はあまり大きくなく、特定の学科の満足度が高いといった特徴は見られなかった。
- 「電気電子」は目立って高いものは見られなかったが、「自己開発センター」「ライブラリーセンター」「高専事務局窓口」の満足度が全学科の中で最も高く、「地域連携教育センター」の満足度が低かった。
- 「機械」は「学習支援計画書」の満足度の高さが目立っており、「夢考房 26号館」もわずかな差で「電気電子」を上回り、最も高くなっていた。一方、「オフィスアワー」の満足度はやや低かった。
- 「グローバル」は「オフィスアワー」と「地域連携教育センター」の満足度が高かった。そして、学科の特徴からか「夢考房 26号館」の満足度が非常に低く、「学習支援計画書」「自己開発センター」「ライブラリーセンター」「高専事務局窓口」の満足度も低めであった。

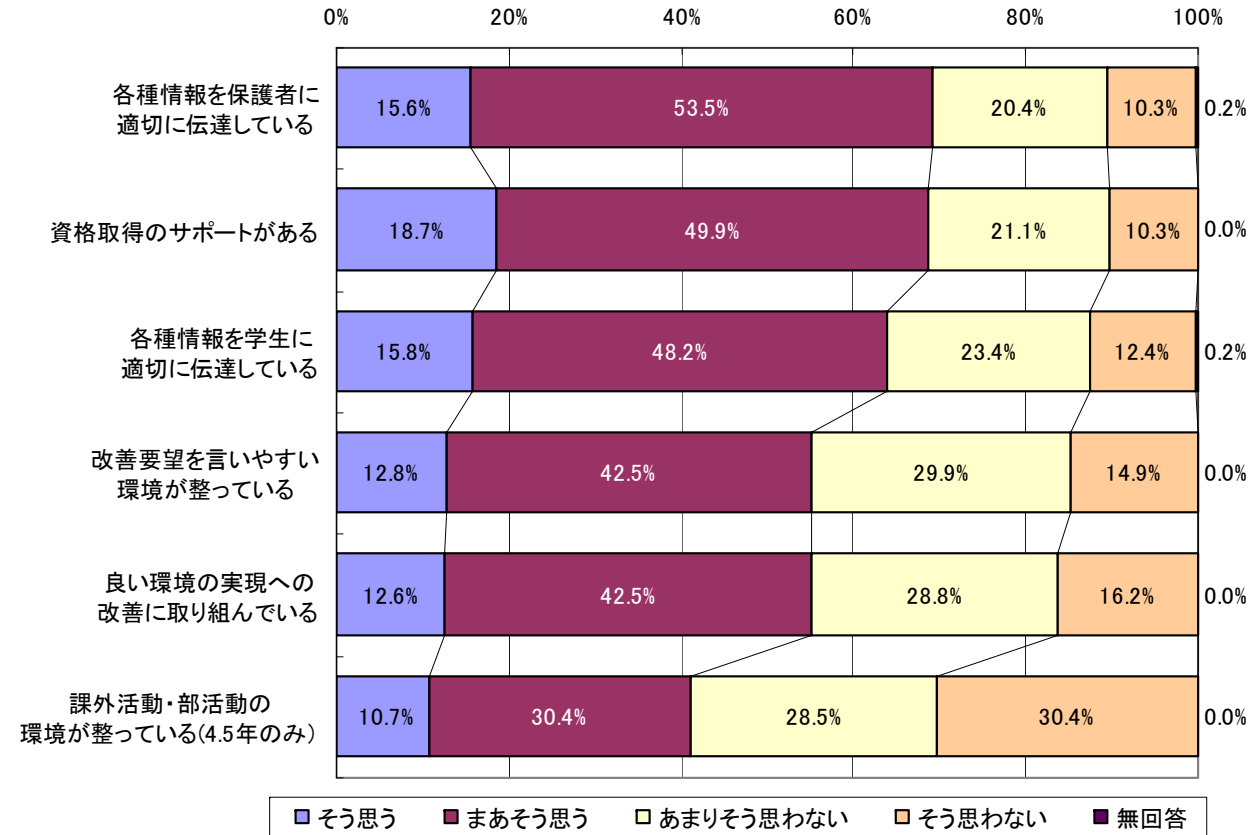
### ■学生サポート評価 学科別比較



## ■学校の取り組み姿勢の評価

- 情報伝達や環境改善など、学校の取り組み姿勢に関する6つの項目の評価を聞いた。
- 最も高評価だったのは「各種情報を保護者に適切に伝達している」であり、69.1%が肯定的な意見であった。
- 上記に次いで、「資格取得のサポートがある」が68.6%、「各種情報を学生に適切に伝達している」が64.0%と続いていた。
- 一方、最も評価が低かったのは「課外活動・部活動の環境が整っている」であった。これは「4年生」と「5年生」のみに聞いた質問であるが、否定的な意見が58.9%と、半数を超えていた。

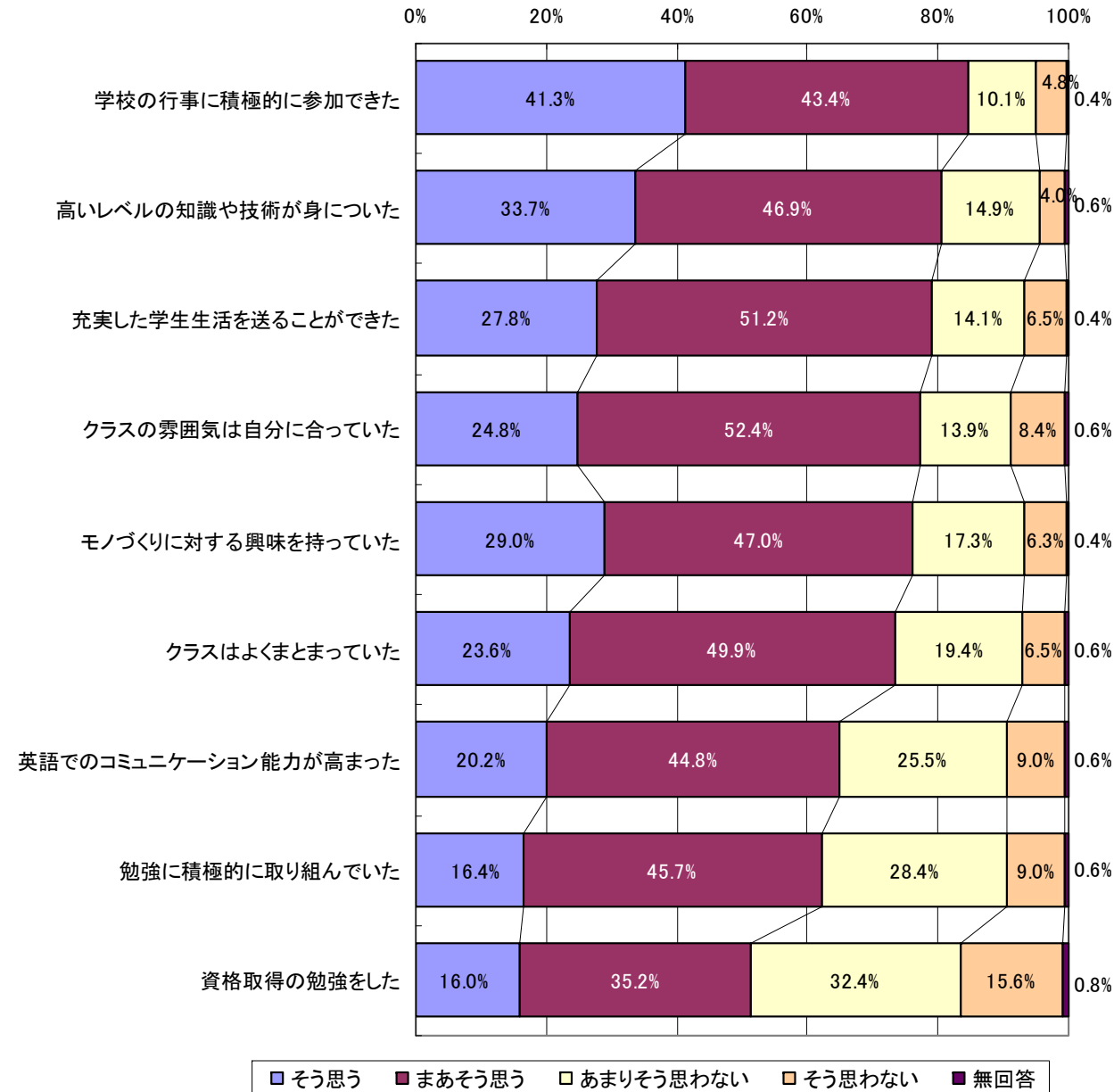
## ■学校の取り組み姿勢の評価（在学生のみ）



## ■学校での過ごし方

- カリキュラムの効果や学生生活で肯定的な意見が最も多かったのは「学校の行事に積極的に参加できた」の84.7%であった。また、そのうちの41.3%が「そう思う」という回答をしており、とても積極的な様子がうかがえた。
- 上記に次いで「高いレベルの知識や技術が身についた」が80.6%、「充実した学生生活を送ることができた」が79.0%、「クラスの雰囲気は自分に合っていた」が77.2%であり、学習面や交遊面などについては約8割の学生が充実しているようであった。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「資格取得の勉強をした」で、肯定的な意見が51.2%、否定的な意見が48.0%であり、約半数が資格取得の勉強に消極的だったことが分かる。そして、「勉強に積極的に取り組んでいた」では肯定的な意見が62.1%、「英語でのコミュニケーション能力が高まった」では65.0%で、ここまでの3項目が肯定的な意見は7割以下となっていた。

### ■学校での過ごし方(在学生のみ)

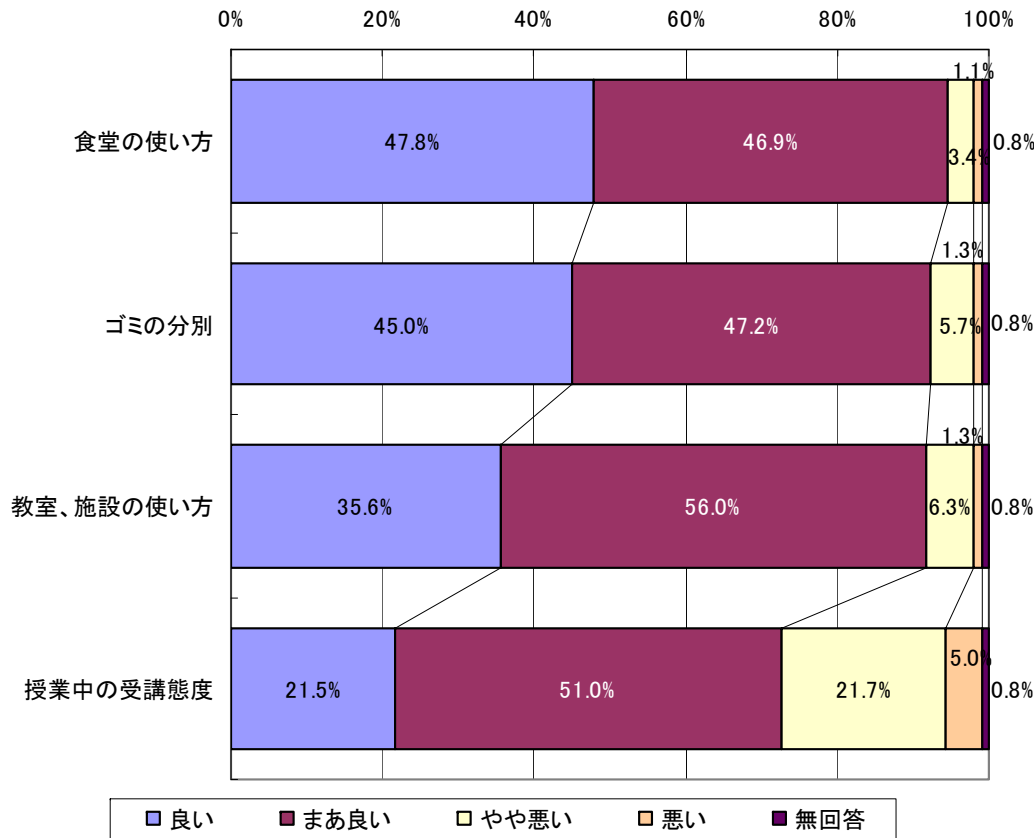




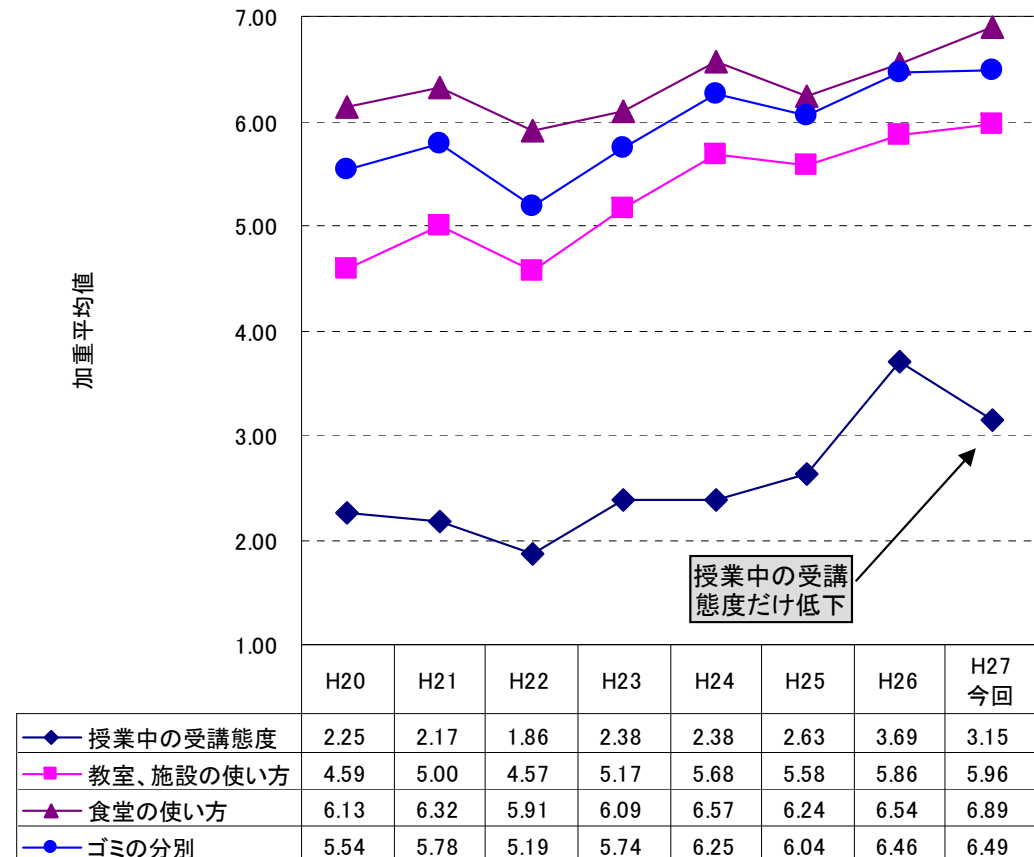
## ■学内での自分自身のマナー

- 学内でのマナーの質問は、「学生自身が自分のマナーをどう思うか？」と聞いている。
- 最も自己評価が高かったのは「食堂の使い方」であり、94.7%が肯定的な意見であった。次いで「ゴミの分別」が92.2%、「教室、施設の使い方」が91.6%であり、ここまでの3項目では9割以上の学生が問題はないと自己評価をしていた。そして、「授業中の受講態度」では肯定的な意見が少し減少し、72.5%が問題ないと感じているようであった。
- 年度別比較を見ると、「授業中の受講態度」は前回は大きく下回っていたが、それ以外はいずれも前回は上回って過去最高の自己評価となっていた。

### ■学内での自分自身のマナー(在学生のみ)



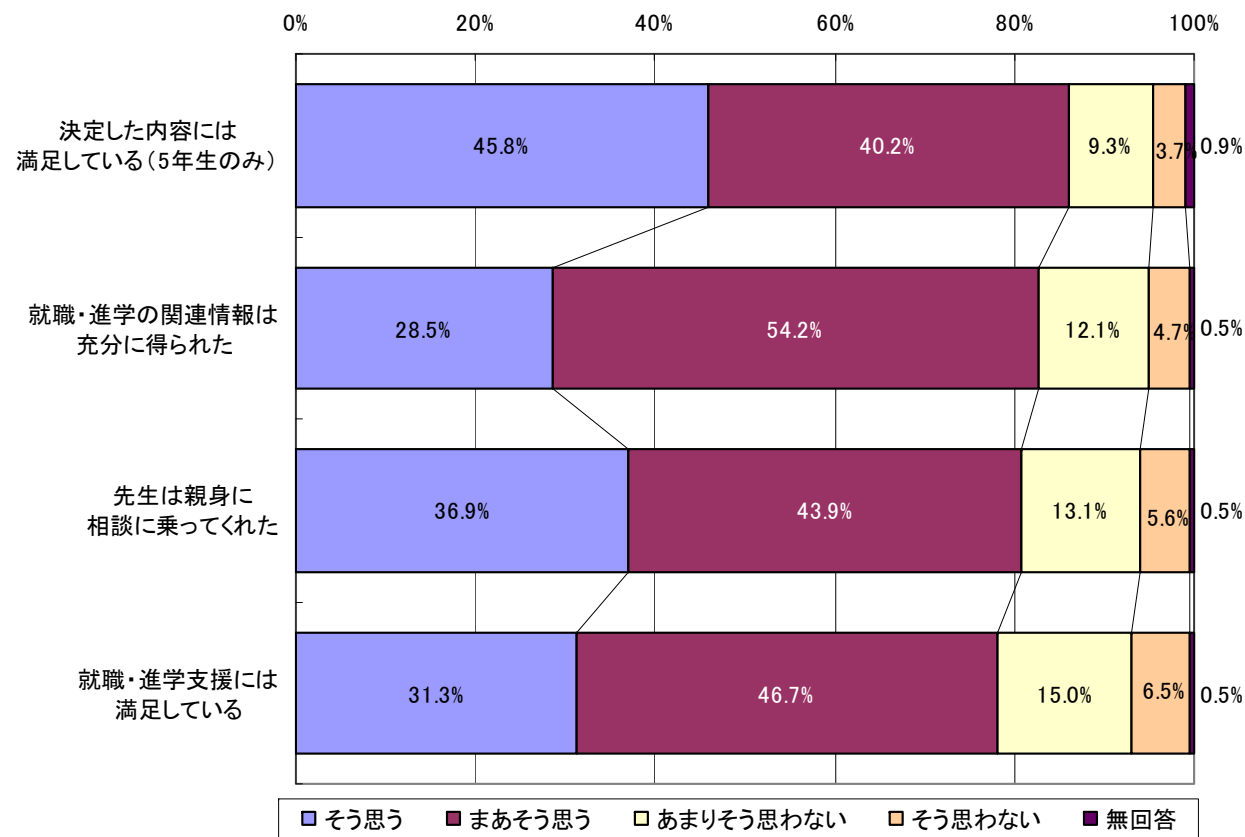
### ■学内での自分自身のマナー 年度別比較



## ■就職・進学支援に関して

- 「就職・進学支援」の評価は「4年生」と「5年生」に聞いているが、全般的に高い評価となっていた。
- 最も評価が高かったのは、「5年生」だけに聞いた「決定した内容には満足している」であり、「そう思う」が45.8%と半数近く、肯定的な意見の合計は86.0%であり、満足度の高さがうかがえた。
- 上記に次いで「就職・進学の関連情報は十分に得られた」が82.7%、「先生は親身に相談に乗ってくれた」が80.8%で続いていた。
- 最も肯定的な意見が少なかったのは「就職・進学支援には満足している」であるが、この項目に関しても78.0%が満足しており、決して低いものではなかった。

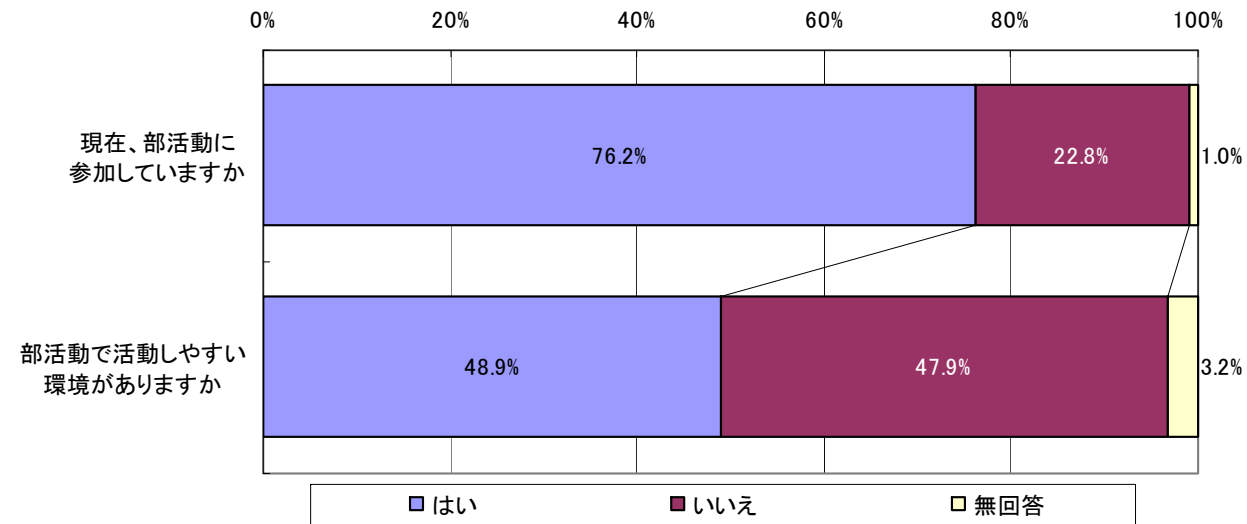
### ■就職・進学支援の評価(4年生、5年生のみ)



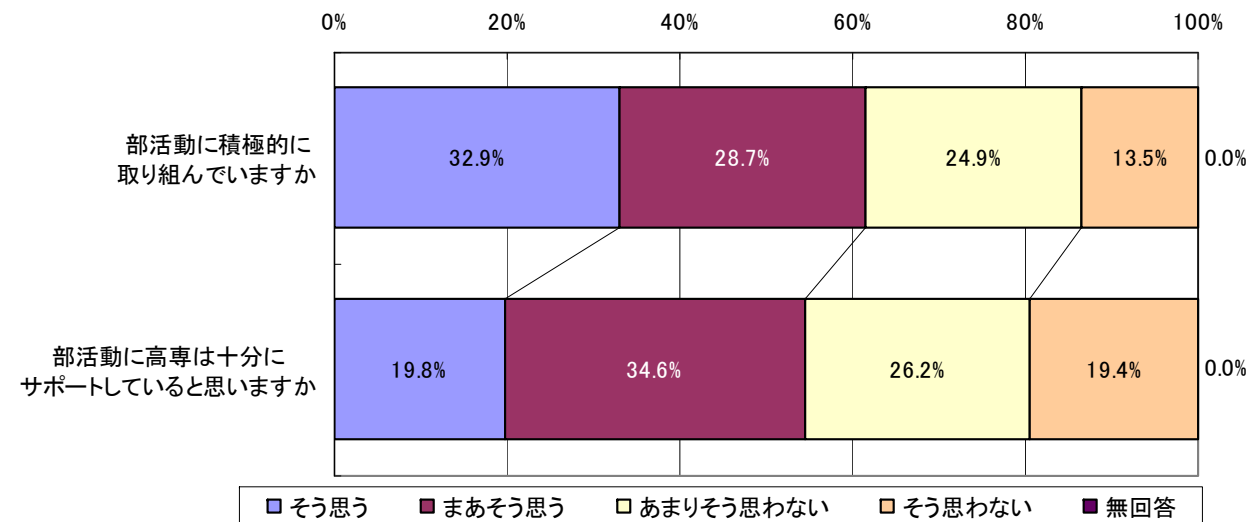
## ■部活動の現状に関して

- 「部活動の現状に関して」は1～3年生のみに聞き、「現状評価」については部活動参加者だけを集計の対象としている。
- 「現在、部活動に参加していますか」という問いに対しては、76.2%が「はい」と答えており、「部活動で活動しやすい環境がありますか」では48.9%が「はい」と答えていた。
- 上記で「はい」と答えた部活動参加者に対して「部活動に積極的に取り組んでいますか」と聞いたところ、「そう思う」が32.9%、「まあそう思う」が28.7%で、合わせて61.6%が積極的に取り組んでいるようであった。また、「部活動に高専は十分にサポートしていると思いますか」では、54.4%が肯定的な評価をしていた。

### ■部活動の現状に関して(1～3年生のみ)



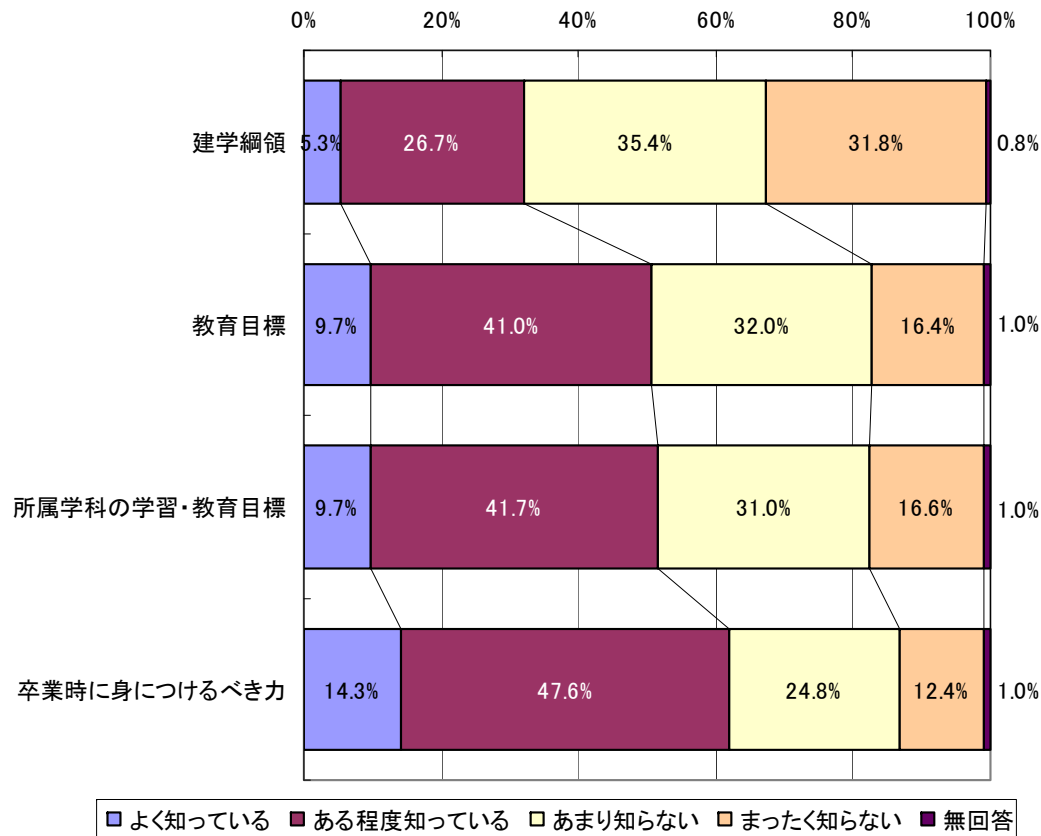
### ■部活動参加者の現状評価(1～3年生、部活動参加者のみ)



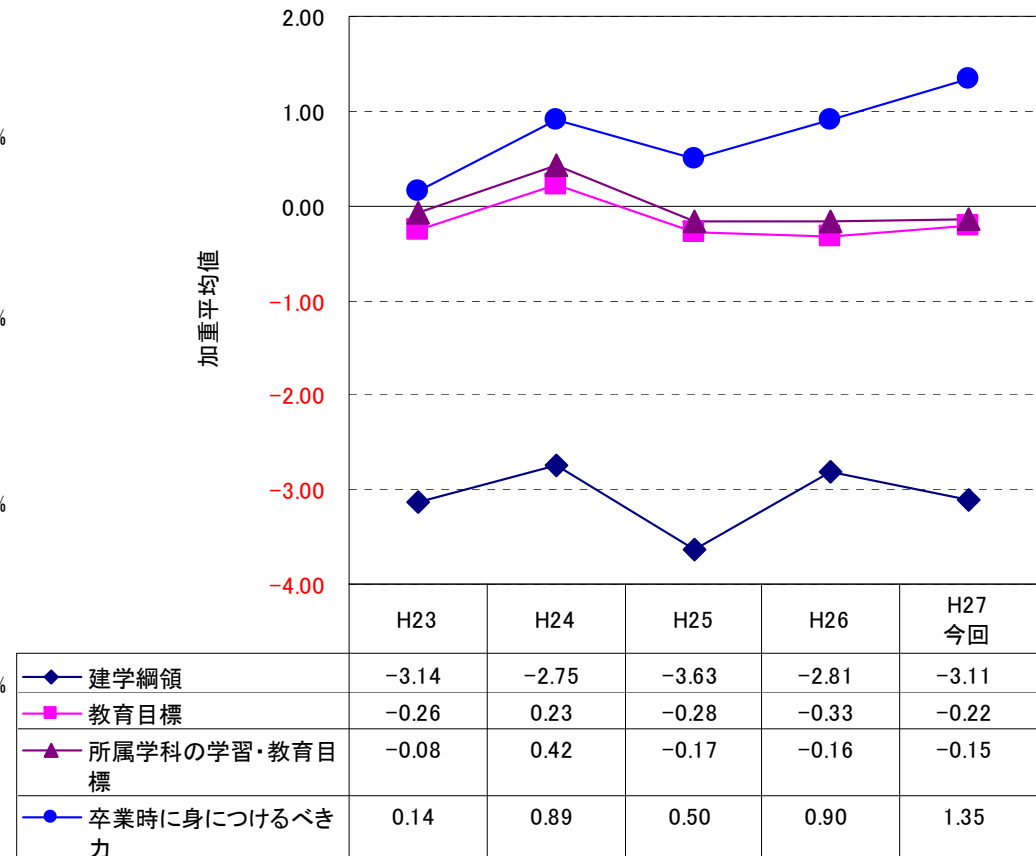
## ■KTCの目的・目標に対する意識

- KTCの目的・目標に関しては4つの項目を挙げているが、まず、「建学綱領」に対しては「よく知っている」が5.3%、「ある程度知っている」が26.7%であり、合わせると32.0%の学生が知っているという回答であった。
- 肯定的な意見の合計で見ると、「教育目標」は50.7%、「所属学科の学習・教育目標」は51.4%、「卒業時に身につけるべき力」は61.9%が知っているという回答であった。
- 年度別の比較を見ると、「建学綱領」の意識だけが前回を下回っていた。他の3項目と比べると、「建学綱領」の意識はマイナススコアが続いており、認知度は低いと言える。
- 「卒業時に身につけるべき力」はH25から増加傾向にあり、今回は過去最高の認知度となった。そして、「教育目標」と「所属学科の学習・教育目標」はわずかに前回を上回ったものの、ほぼ横這いという結果となっていた。

### ■KTCの目的・目標に対する意識(在学生のみ)



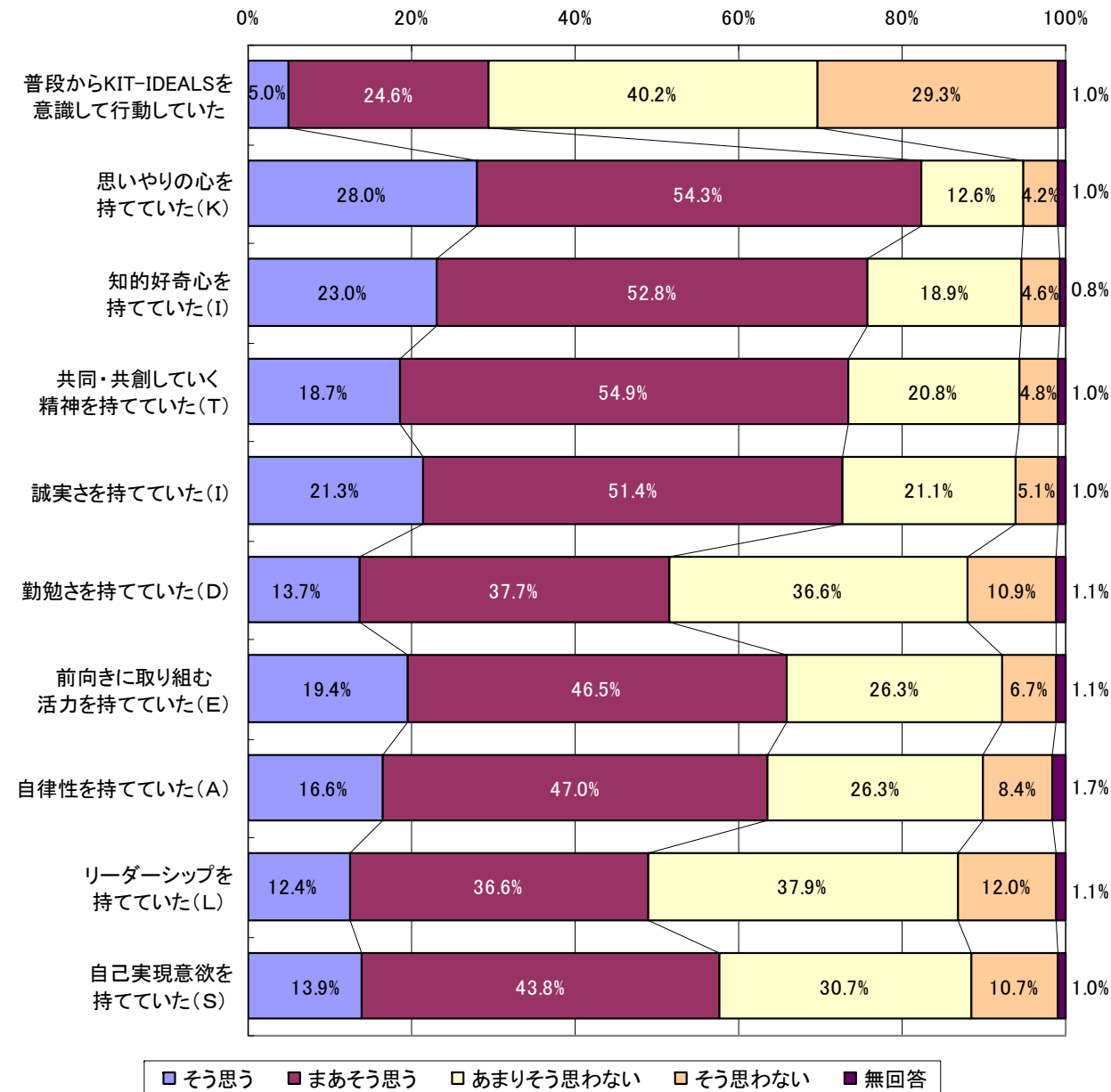
### ■KTCの目的・目標に対する意識 年度別比較



## ■KIT-IDEALSに関して

- 最初に「普段からKIT-IDEALSを意識して行動していた」を見ると、「そう思う」が5.0%、「まあそう思う」が24.6%であり、合計すると29.6%が普段からKIT-IDEALSを意識していたという回答であった。
- KIT-IDEALSの9項目を見ると、肯定的な意見が最も多かったのは「思いやりの心を持っていた(K)」であり、82.3%が肯定的な意見であった。
- 上記に次いで、「知的好奇心を持っていた(I)」が75.8%、「共同・共創していく精神を持っていた(T)」が73.6%、「誠実さを持っていた(I)」が72.7%で続いていた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「リーダーシップを持っていた(L)」の49.0%であった。また、「勤勉さを持っていた(D)」が51.4%で、この2項目の低さが目立っていた。

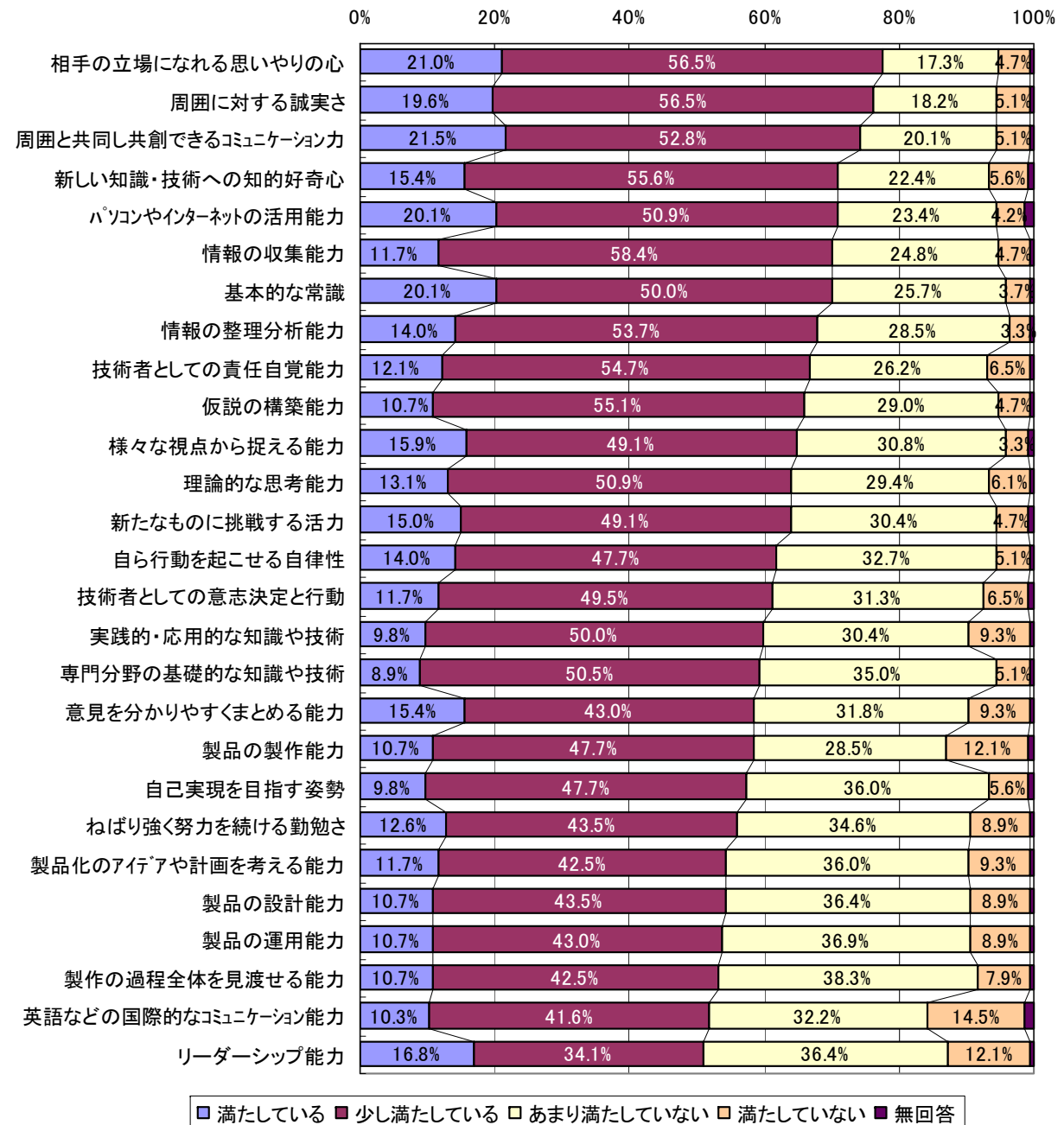
### ■KIT-IDEALSに関して(在学生のみ)



## ■自分自身の能力の評価

- 「学生が考える現段階の自分自身の能力」に関しては、「4年生」と「5年生」のみに聞いている。
- 自分自身の能力で肯定的な意見が最も多かったのは「相手の立場になれる思いやりの心」であり、77.5%が持っているとして自己評価をしていた。
- 上記に次いで「周囲に対する誠実さ」が76.1%、「周囲と共同し共創できるコミュニケーション力」が74.3%、「新しい知識・技術への知的好奇心」と「パソコンやインターネットの活用能力」が71.0%と続いており、これらの点が学生自身が自信を持っている点と言える。
- 一方、最も自信を持てていなかったのは「リーダーシップ能力」であり、肯定的な意見は50.9%であった。ただし、「満たしている」の16.8%は低いものではなく、一部の学生は自信を持っているとして自己評価しているようであった。

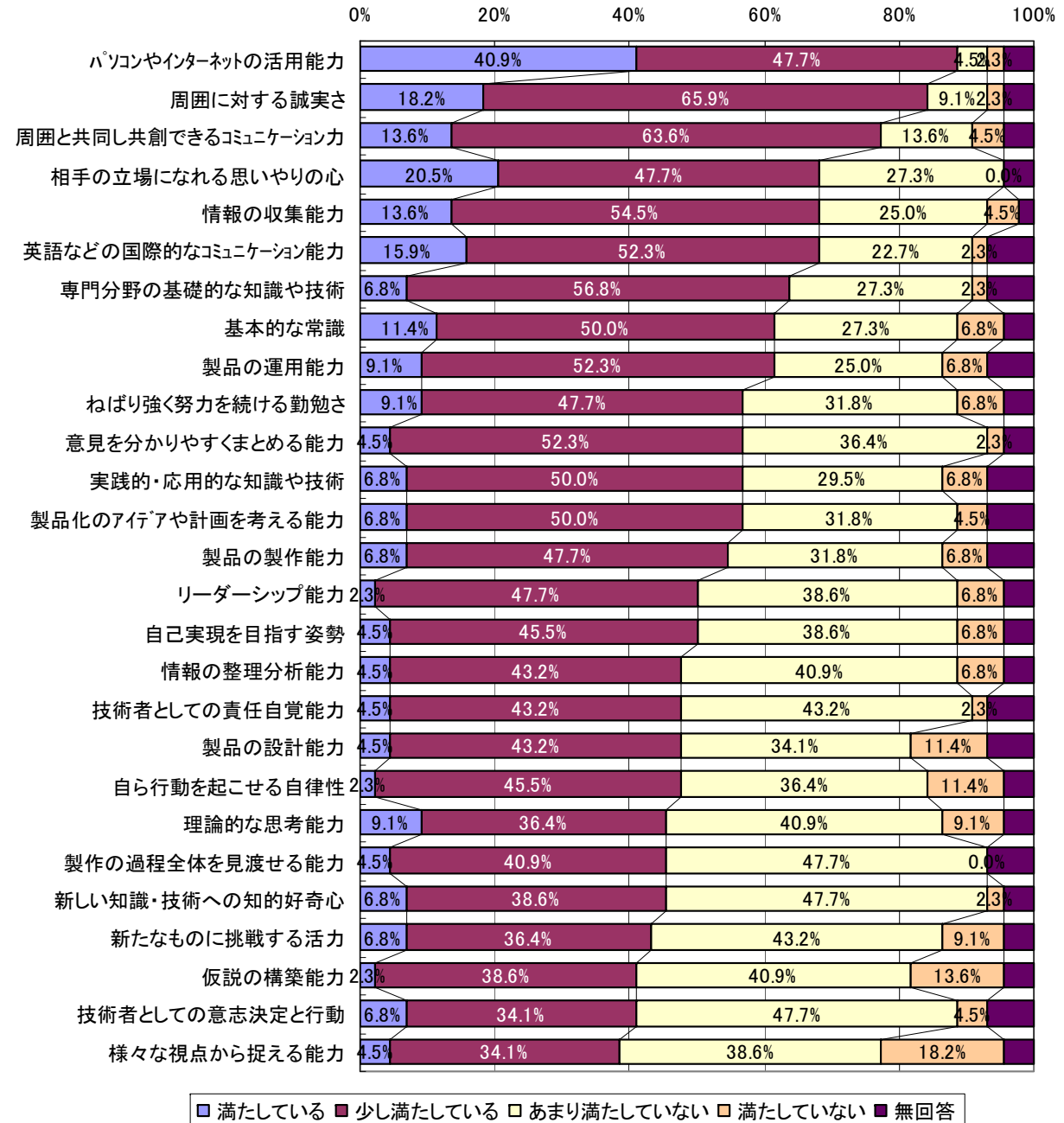
## ■学生が考える現段階の自分自身の能力(4年生、5年生のみ)



## ■教職員による卒業生の能力の評価

- 教職員の「卒業生の卒業時の能力の評価」を見ると、最も評価が高かったのは「パソコンやインターネットの活用能力」で、「満たしている」が40.9%と突出しており、肯定的な意見の合計は88.6%と最も多かった。
- 次いで「周囲に対する誠実さ」が84.1%、「周囲と共同し共創できるコミュニケーション力」が77.2%、「相手の立場になれる思いやりの心」と「英語などの国際的なコミュニケーション能力」が68.2%、「情報の収集能力」が68.1%で続いており、これらが卒業生の強みと考えているようであった。
- 一方、教職員が最も厳しい評価をしていたのは「様々な視点から捉える能力」であり、肯定的な意見は38.6%であった。また、「技術者としての意志決定と行動」と「仮説の構築能力」も40.9%と、評価が低かった。

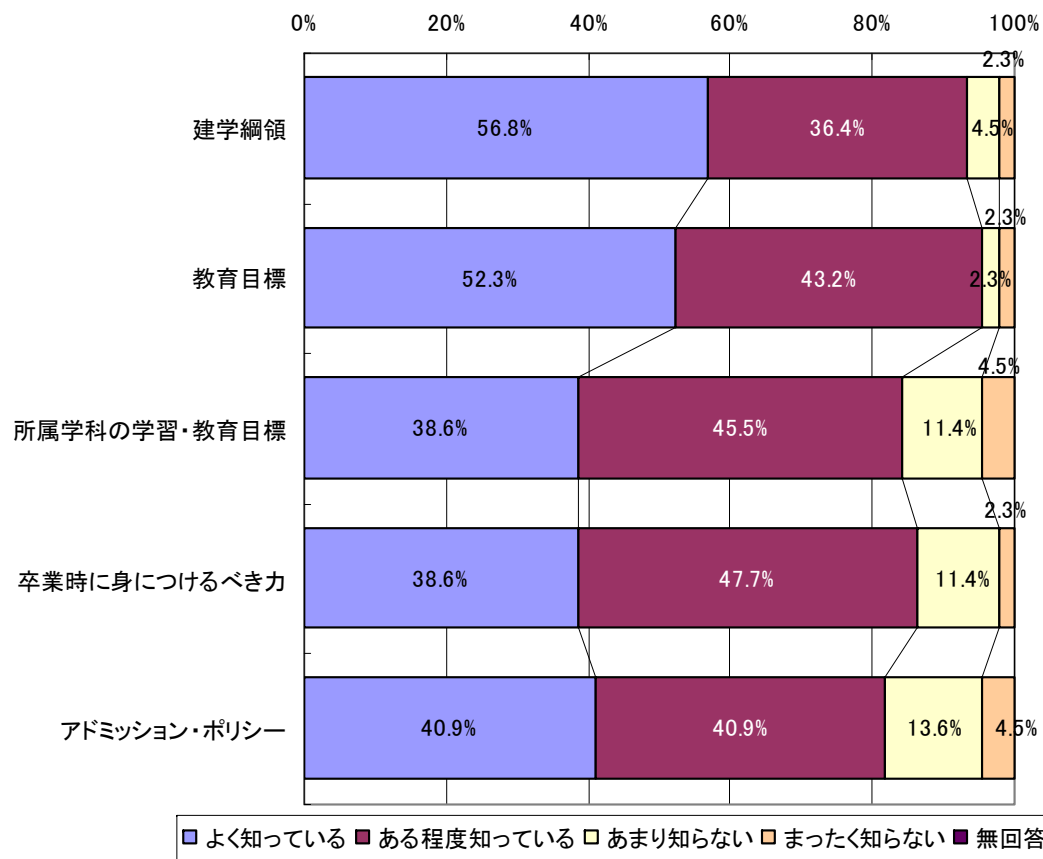
### ■教職員による金沢高専卒業生の能力評価(教職員のみ)



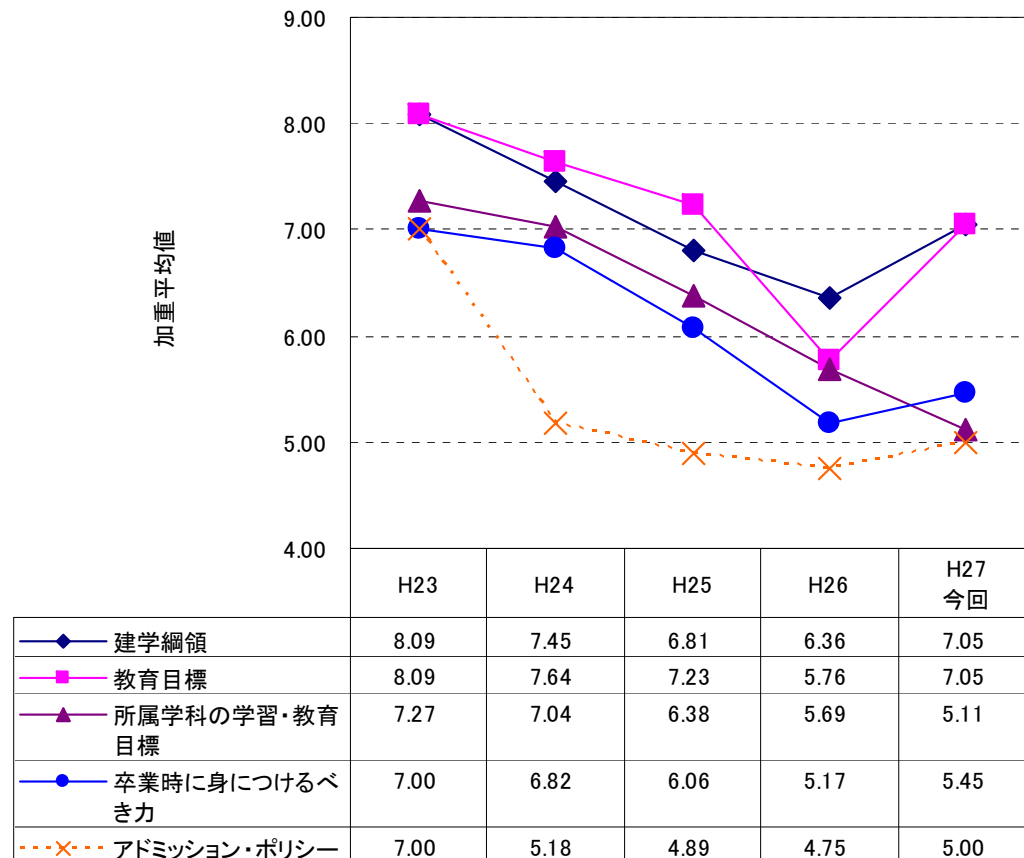
## ■教職員の「建学綱領」「教育目標」などに関する意識

- 各種の認知度を見たところ、「建学綱領」では56.8%が「よく知っている」と答えており、「ある程度知っている」の36.4%を加えると、93.2%となった。続いて、「教育目標」では「よく知っている」が52.3%、「ある程度知っている」が43.2%で、合わせると95.5%となり、この2項目は9割以上の教職員に認知されていた。
- 上記以外の3項目の認知度はよく似ており、肯定的な意見の合計を見ると、「所属学科の学習・教育目標」が84.1%、「卒業時に身につけるべき力」が86.3%、「アドミッション・ポリシー」が81.8%であり、いずれの認知度も8割以上であった。
- 年度別比較では、「所属学科の学習・教育目標」はH23から低下傾向が続いており、今回も前回を下回って過去最低となっていた。その他はすべて前回を上回っており、特に「教育目標」と「建学綱領」は前回を大きく上回っていた。

■「建学綱領」「教育目標」などに関する意識(教職員)



■「建学綱領」「教育目標」などに関する意識 年度別比較





<学生の満足度や目的・目標意識に関して>

- ◆高専に対する満足度は69.1%となり、H25から継続的に増加して過去最高となった。
- ◆特に「1年生」の満足度が高く、入学直後の受け入れ体制の改善が進んでいるのではないと思われる。
- ◆満足度が3年生で低下する傾向は変わらないが、中だるみの少ない学生群も出てきており、これらの研究が重要だと思われる。

「1年生」の満足度が高くなってきたのはなぜか？

中だるみがなくなってきたようであるが、本当にそうか？

「満足度」の高さに、「目的・目標意識」が連動していない。

「課外活動・部活動」の環境にはまだ改善の余地あり。

<授業・学習サポートに関して>

- ◆「英語」や「モノづくり」関連の評価が過去最高となるなど、授業は全般的に充実している様子が見えたと。
- ◆「教員の対応や学習支援」「学生サポート」の評価も非常に高く、授業の満足度につながっているものと思われる。
- ◆学科と関連性の高いカリキュラムの評価は高いが、それだけで良いのかという検証も必要だと思われる。

就職・進学の満足度は何によるものか？

<その他の環境に関して>

- ◆今回の「就職・進学支援」では「決定した内容」に関する満足度が高く、最終的には満足しているようであった。
- ◆「就職・進学支援」では「電気電子」の満足度の高さと、「グローバル」の低さが目立っており、これが何によるものなのかをしっかりと把握しておく必要があると思われる。
- ◆「1年生」の時点での「知的好奇心」の高さをしっかりと維持させることが、今後の課題になると思われる。

「満足度」「授業」「学生生活」「就職・進学支援」など、全般的に良い状態であり、この状態の良さの要因を確認しておく必要がある。

入学直後の満足度の高さや、中だるみが少なくなる傾向が見られるが、これを一過性にならないよう、継続する必要がある。

教職員の不満が増大しているのが非常に気になる点であり、しっかりとした意見収集と対策が必要だと思われる。

<学校での過ごし方に関して>

- ◆「学校行事や学生生活」「部活動」など、学習以外の面でも充実している様子が見えたと。
- ◆「部活動の環境への学校の取り組み姿勢」の評価は過去最低で、教職員も課題があると感じており、現状把握と対応が必要であると思われる。
- ◆マナーの意識は学生と教職員の間で大きな隔りがある。まず、これを解消し、必要があれば学生に問題意識を持たせることが必要だと思われる。

教職員の不満の蓄積が進んでいる可能性があり、最優先で対応すべき課題ではないか？

<教職員の意見に関して>

- ◆今回、色々な指標から「教職員の満足度の低下」が浮かび上がってきており、非常に気になる点である。これには早急な対策が必要なのではないかと思われる。
- ◆不満を聞き取る仕組みが整っていないという指摘もあり、まずはしっかりと意見収集を進めるところから対策を行っていく必要があると思われる。

---

平成27年度

## KTC総合アンケート調査結果[報告書]

- 発行日 平成28年6月24日
  - 発行者 金沢工業高等専門学校
  - 調査票設計・分析 有限会社 アイ・ポイント
  - 編集 金沢工業大学企画部CS室
- 

無断複製厳禁